會を開いたところ、意外にも百五十餘名の出席あり。いづれも感謝と滿足の意を表し、異口同音に『長く繼續を希望する』といふ申出でがあつた。同會は約十年間もつづき、市内外の小學校を幾めぐりしたが、これがため献身的に働いた初代主事堀江儀作、次代主事井上東吉、共に長逝して、後任に適當な人を見出だし得なかつたため、打切りとなつたことは惜しかつた。

この大震災に際して、海外より受けた同情は莫大なものであつたが、日曜學校協會も、米國側よりはワナメーカー二世の手にまとめられての義捐があり、英國日曜學校協會、スコットランド日曜學校同盟等よりも寄附あり、特に支那の日曜學校生徒からクリスマス献金を寄せられるなど思ひがけない好意を受けた。猶、内務省からは金二萬圓を復興資金として下附され、當事者一同感謝相重なると共に、この日本日曜學校協會といふものが、これ程までに國の内外から認識されたかを思ふて、何とも云へぬ心强さを感じたのである。

かくてこの未曾有の大變災は、幸ひにして日本の日曜學校界には起ち難い痛痍を貽すやうなことなく、大勢は渝らざる前進の歩武を進めて行つた。顧みて天父の愛護豐かにその背後に在つたことを思ふて、感謝は更に深まらざるを得ないのである。

第八節　協會事業の自然的膨脹

大震災のために、唯一つ『日曜學校年鑑』の紙型が殘つただけで、爾余の出版物を悉く灰にしてしまつた協會では、鋭意その回復に力めはじめた。

教師用教案は、大正五年の第十回大會に於いて、十一箇年制級別教案の編纂を決議したが（第三章七節參照）幼、初、中、高各科一年を出版しただけで荏苒として進まず、大正十年に至つて漸く中等科二年、同十二年に初等科二年の續刊を見たやうな有樣であつたが、それが皆烏有に歸したため、從來の各派選出編纂委員會を廢し、根本的に機構を改める方針を採り、恰も米國留學より歸朝した上澤謙二を主事に任じて、教案編纂主任とし、更に文學委員會を組織し、それ〴〵執筆者校閲者を定めて進行することにした。委員の顔觸は野邊地天馬、高崎能樹、鈴鹿正一、村岡花子、岩村安子、中澤咲子、光靜枝、由木康、高田弘子、錦織貞夫、田泉保興、北島つや子、龜井ふさ子の諸氏で、協會側よりコールマンと上澤謙二が參加した。

先づ教案の構成を科別に據ることとし、各科の主題を、幼稚科『優しき神とそのよき世界』『愛の神とそのよき子供』。初等科『我等の模範なるイエス』『我等の父なる神』『神の子供の生活』、

中等科『舊約建國物語』『キリスト物語附傳道者改革者列傳』『舊約王國物語』、高等科『イエス傳』『使徒時代』『基督教的生活附近代基督教的指導者』の十一として、十一箇年に配當する仕組にした。この十一題目を更に上下半分づつに分けて、執筆成り校閲終るに從つて順次出版することにしたのである。

更に文學委員會は、基督教兒童文學の奬勵と促進にあたる使命をも有し、その手初めとして新鮮な宗教的兒童讀物を提供することとなり、十三年中に協會出版部あをぞら社から、野邊地天馬著『童話集幼き日』村岡花子著『島の娘』鈴鹿正一著『舊約物語エステル姫』山村暮鳥著『聖フランシス』上澤謙二著『兒童說教集子供を眞中にして』の五冊を出版、つづいて津川主一著『こども聖歌集銀の星』を發兌し、華々しいスタートを切つた。

猶、日曜學校年鑑、日曜學校教授細目の新版が成り、日曜學校叢書中『教育的心理學』『宗教教育史』『舊約聖書教授法』『基督傳教授法』の四冊を復刊した。

日曜學校讃美歌は、委員達の二年間の勞苦が一朝にして失はれたのであるが、幸ひ大部分の稿本が各委員の手に在つたので、一部分の補充をすれば回復の見込が立ち、再び勇氣を鼓して編纂に着手し、十三年初頭に出版の運びになつたことは、努力の程想像に餘りある。これが出版と同

時に、今村總主事は中田羽後委員を伴つて、東海道、近畿、中國、九州に亘り、讃美歌出版記念講演會を開いたが、これは日曜學校界多年の翹望に答へたもので、一年間に二萬五千部の賣行を見たのは、恐らく基督教出版界の白眉と稱すべきであらう。その後この委員會は解散して、新たに音樂委員會が作られ、草川宣雄、津川主一、由木康、堀内敬三、大中寅二、木岡英三郎、内田榮一、岩村清四郎の諸氏が委員となり、日曜學校音樂の振興と普及を圖ることと、日曜學校讃美歌の改訂增補を畫することとを目的とし、昭和六年、その改訂增補版を出すに至り、又譜なしの生徒用さんびか並單音譜附さんびかも上梓されたが、いづれも需要は絶えず、數次版を重ねて今日に及んでゐる。

雜誌『日曜學校』は又一大躍進の機會に遭遇した。その一は編輯に多くの經驗と獨特の手腕を有する早大出の久連松弘氏を主任として迎へたことであり、その二は組合教會教育部の機關誌『宗教々育』と、メソヂスト日曜學校局の機關誌『教師之友』とが、協力の尊い精神によつて、日曜學校誌と合同したことである。從つて兩誌の讀者が引繼がれることになつて發行部數は激增し、これに應じて内容も、三十二頁から六十四頁に盛り上つたことであり、その三は、教文館の手を通じて發行してゐた『月刊萬國日曜學課』が、震災のため刊行不可能になつたので、日曜學

校誌のうちに併合編輯することになり、龜德理事が『細案』なる題下にその註釋を執筆しはじめたので、該學課を購讀してゐた者が、此方へ轉じてきたことである。

更に協會は、大通りに面する一劃を仕切つて、圖書販賣部を設け、玉置眞吉を主任として國內發行の宗教關係の出版物ばかりでなく、外國の出版社とも特約して、洋書の取次を開始した。これは震災の打擊のため一時停頓の姿になつた東都基督教出版元及販賣店の缺陷を補はうとの目論見から企てられたものであつたが、果然需要は諸方から至り、なか〳〵の活況を呈したのである。

協會寄附行爲の改正の結果、職員の最高は總主事となり、從つてその下に主事を置くことになり、上澤謙二が主事に就いたことは前述したが、更に岡本執が主事となつた。同氏は協會本部の書記として、鵜飼、森田、川澄、今村四代の總主事を助け、大正十三年をもつて恪勤十有七年。蔭にあつて默々として細かい面倒な事務をやりつづけたことは、確に協會發展の隱れた礎石の一つといつてよい。

やがて第九回世界大會が近づいて來た。期日は大正十三年六月十八日から九日間、場所は英國スコットランドのグラスゴー市、會場は聖アンドリユース・ホールである。

日本側としては前回東京開催の關係もあり、大震災には海外日曜學校側から深厚な慰問を受けた事實もあり、何か特別な感謝の表示をしたいものと考慮して、思ひついたのがハガキ豪紙數萬枚を全國日曜學校に配布して生徒の自由畫を描き、それを大會出席の各國代員に寄贈するといふことであつた。その臺紙には日英兩文で『私共日本の日曜學校生徒は、昨年震災の折、皆樣からの厚い御同情に對し茲に心から御禮申上げます』の文字を印刷した。

その結果九萬枚といふ大量が集まつたが、年齡は滿三歲から二十五歲に及び、なか〳〵の逸品もあつたので、優秀なもの千枚を選び、十冊の高雅な特製アルバムに收め、英國皇后陛下、米國大統領夫人、ロンドン市長夫人、ニューヨーク市長夫人、グラスゴー市長夫人其他に捧呈することにした。この企については、外務省でも非常な贊意を表されたのであつた。

それで東京と大阪で、その自由畫展覽會を開いた。東京では、震災後宿泊に不便なため、特に地方部會關係者上京の際の簡易宿泊を目的として建てたエマオ寮を會場とし、大阪では、部會の盡力と、大阪每日新聞社後援の下に、市教育會館を會場とし、數千の人を惹きつけた。

協會より派遣された大會への代員は、今村總主事の外、鵜飼猛、山本忠興、岩村清四郎、矢部喜好、小泉澄、笹倉彌吉、コールマン夫妻、岩村夫人。協會と直接關係のない人々は、神戸の實業家吉田履一郎及令孃、富士見町教會日曜學校教師工藤正平、麻布メソヂスト教會日曜學校教師

水野恭介及び靜岡英和女學校長リンゼーの總勢十五名であつた。

いよ〳〵開期になると、代員は東西南北から馳せ參じ、世界五十二箇國を網羅して、その數二千八百十人。代表者數の多いことと建設的計畫の多いこととは未曾有といはれたが、四年前日本に開かれた第八回世界大會の印象は猶鮮かで、『日本』とか『東京』とかいふ呼聲は絶えず聞かれ、日本側代員は始終面目を施した。殊に今村總主事が日本日曜學校の現況を報告し、併せて震災當時の謝辭を述べ、御禮のしるしに日曜學校生徒の自由畫繪葉書を御一同に贈呈したいと發表し、日本代員全部の手によつて、來會者に一人も洩れなく配布した時などは、拍手喝采堂を動かさんばかりであつた。これは非常な好評で、後になつても『もう少しありませんか』と度々催促されたくらゐだつた。かくて日本の心がその繪葉書と共に、おのづから世界五十二箇國に廣まつていつたことは、まことに時宜を得た企であつた。

更に大會中、加藤總理大臣、江木文部大臣、澁澤子爵、大阪部會聯盟等より祝電を寄せられたことは、一層の好印象を與へた。

猶、世界日曜學校協會の新役員中には、小崎理事長が副會長の一人に、井深博士が名譽副會長の一人に、小泉澄が實行委員の一人に擧げられた。

大會第三日目の午後四時から、米國側の實行委員は日本代員全部を中央ステーション・ホテルに招待した。これは過般在米日本人の利權を根抵から搖るがさうとする移民法案が米國議會を通過したことに就いてであつた。ランデス總幹事を初めいづれも衷心より遺憾且つ恥辱ともいふべき旨を表明し、やがての機會にその撤廢を見るやう懸命に盡力するから、その意を諒とされたいと力を籠めて述べた。これに對しわが代員もその厚意を感謝すると共に交々立つて感想を語り、兩々隔意なき懇談を遂げて、互に處は隔たり種族は異なるも、主に在る者の意見が全く同じく、心情が一つであることをしみ〴〵經驗すると共に、このやうなひそやかな會合こそ、世の視聽を集めて、大廣間の圓卓をめぐり、虛々實々の議論を闘はす國際會議以上の意義を藏することを感ぜざるを得なかつたのである。

大會は二十六日をもつて無事終了。おのがじし自らの働き場へと急いだが、鵜飼、矢部兩代員は米國經由歸朝のコースを取り、七月十四日ワシントン府に到着。翌十五日、米國赤十字社本部を訪れて、携行した日曜學校生徒の自由畫アルバムを、ベーシ社長に贈呈し、震災當時の厚意を深謝すると、喜んで受けて『赤十字社圖書館に長く保存する』とのことであつた。翌十六日、吉田駐米代理大使に伴はれてホワイト・ハウスに出頭。クーリッヂ大統領に會見し、同じくアルバ

ムを夫人に献呈したところ、沈默で有名な大統領も流石に微笑をたたへ『子供からの贈物！　ミセス・クーリッヂはさぞ喜ぶでせう。妻は余と結婚するまで學校の先生をしてゐたから』といひ、鵜飼、矢部兩氏が交々説明する一枚々々を、注意深く終りまで見て　まことによく出來てゐる、綺麗綺麗』と褒めて、日本の兒童によろしく傳へられたいと鄭重な挨拶をされた。

かくて派遣代員はそれ〴〵使命を果して相次で歸朝したが、思へば日本日曜學校協會も、世界大會を動かす働きをするまでに發展したのである。

第九節　大震火災の後を承けて

第十五回全國大會は大正十四年四月三日から六日まで、神戸中央メソヂスト教會で開かれたが、日曜學校協會に於て、科別教案が編纂されつつあるのと相應じて、中心的題目がここに集まり、大會中科別教案に關する研究が發表され、懇談が重ねられ、論議が交へられることが多かつた。

又この大會に於て、多年理事長であつた小崎弘道に代つて、新たに山本忠興がその椅子に就いた。又四月末には、四年間渾身の精力を傾けて活躍された今村總主事が健康上の都合により辭職

され、岡本主事、久連松編輯主任も退職した。

東京に於ける基督教關係書店は、その後着々復舊して、大體震災以前の狀態となつたので、その缺陷を補ふために始めた協會圖書販賣部日曜學校書店は閉鎖することとし、事務の簡捷を計るため、上澤主事を總主事々務取扱とし、從來庶務係だつた石川義一は會計を兼ね、新たに入つた河合卯一は雜誌日曜學校の編輯に當たつた。

毎年十月第三日曜を世界日曜學校日として守ることは、世界日曜學校協會の意向を參酌し、數年前より實行して來たが、大震災も二年前となり、その記憶も漸く過去の事件となつたので、復興復舊のみに追はれてゐた、慌しい氣分を一掃し、積極的建設への第一歩として、大正十五年秋の世界日曜學校日には、時を同じうして全國一齊に生徒大會を開くことを各部會に檄したところ、いづれも響きの物に應ずるやうに贊同し、十八日當日は、北は北海道の奥から南は臺灣の果まで、三十餘部會がこれに參加した。これ實に主の小兵士の勢揃ひにも譬へつべく、たしかに全國的協同の壯舉であつた。東京に於ては五部會主催で、日比谷公園音樂堂を會場とし、賀川豐彦の兒童説教、守屋東女史のお話、關屋敏子孃の獨唱などがあり、集まる者無慮三千、献金三百六十九圓八十一錢に上つた。加盟日曜學校のその日の献金は、日曜學校協會へ寄附する例になつて

ゐたが、當日は約千百圓を突破して、嘗てなき記錄を示した。以來世界日曜學校日は生徒大會デーのやうになり、その風は今日にまで至つて居るやうである。猶當日、山本理事長は、東京中央放送局から『兒童の宗教教育』と題して放送したが、恐らく日曜學校運動がラヂオを通じて全國に傳へられたのは、これを以て嚆矢とするであらう。

この頃次第に日曜學校界に擡頭した一つの行事は夏期聖書學校である。

抑々夏期聖書學校の開祖といはれるのは、米國ニューヨークの浸禮教會都市傳道部幹事ボビル博士で、夏の間ただ遊び耽つてゐる子供、ぶら〳〵してゐる學生、ガランとしてゐる教會を見て、この三つを結びつけ、教會を用ゐて子供を集め、學生に指導させることを思ひつき、試驗的に五箇所で開いたところ、意外の好成績を擧げた。それは一九〇一年卽ち明治三十四年であつたが、この事業は逐年增大し、十年後には州法の下に兒童夏期聖書學校協會が組織され、更に諸外國に採用されて、萬國兒童夏期聖書學校協會が成立したのは一九一六年卽ち大正五年であつた。

我國に開かれた最初のものは、大正三年八月四日より三日間神戸關西學院神學館で開かれたメソヂスト日曜學校局の第一回西部少年夏期學校で、更に翌年は同局主催で東部夏期學校が鎌倉に開かれ、次で五年八月矢部喜好によつて膳所に開かれた『第一回琵琶湖少年少女夏期學校』がある（本章六節參照）。

創始者ボビル博士は、大正七年來朝して、この運動につき大に鼓吹するところあり、明治學院のホフソマー教授と日曜學校協會の川澄幹事が日本委員となり、相當宣傳もしたが、著しい反響もなく、そのままに推移したのであつた。

それがこの期に至つて擡頭して來た理由としては、暑中休暇の利用といふことが諸方面に問題にされると共に、或はキャンプ生活とか、或は登山とかが、少年團などによつて行はれ、次第に一般の注意を惹くやうになつた時勢の冥々の影響を思はせられるが、直接これに力を盡したのはコールマン名譽主事である。同氏は講演の機會を利用して、夏期聖書學校に就いて語り又訴へた。日曜學校協會もこれに力を注ぎ、夏期聖書學校案內を洽く各日曜學校へ配布したり、夏期聖書學校指針を作成したり、夏期聖書學校指導者講習會を開いたり『夏期聖書學校教案』中等科用、初等科用を發行したりした。同書は村岡花子の飜譯に係るものであつた。

以來夏期聖書學校は逐年發達の運路を辿り、今日に於いては、日曜學校界に缺くべからざる一つの事業のやうに見做されるに至つたのである。

この時期に於ける協會としての一大問題は、地所に關することであつた。震災後思ひ〳〵のバ

ラックが急造され高低凸凹入亂れてゐたが、市當局はこの機に多年の懸案たる市區改正を實現しようとして、各建築に對する區劃整理に着手した。それで道路を擴張したり、公園を新設したり、持地の併合分離をしたりしたので、從來とは全く違つた思はぬ位置に追ひ込められる家屋もあつたが、日曜學校協會もかかる憂き目に遇ふ段取りになつたので、百方對策を講じ、殊に法律家たる藤川監事は此間に奔走して、舊來の位置を保ち得たのは幸ひであつた。

區劃整理が進捗すると共に、會館建築の議が當然起つて來たが、米國からの十五萬圓が未着なので、如何ともし難い狀態であつた。

然しいつまでも遷延するのは不可なので、出來得る範圍に於いて、よし完成しなくても、會館の一部でも作りたいとの方針から、全國日曜學校に訴へ、大正十五年十一月二十二日から二十九日までを鉛筆週間とし、街頭賣上げをする向は二十三日新嘗祭を利用する計畫を樹てた。この企に一段の拍車を加へたのは、布哇日曜學校協會が日本の日曜學校會館建築に深甚の同感を表し、日本製の鉛筆を輸入して、全島に亘つて『鉛筆デー』を催し、賣上純益を寄贈する申出があつたことである。

『鉛筆デー』は、世界大會の準備として初めて行はれ（第四章一節參照）非常な好成績を擧げ

たので、その後も一回會館建築資金獲得のため催されたが、更に最後の第三回目を決行することになつたのである。

出來上つた鉛筆は『サンデー・スクール』銘入りで消ゴム附。內地向五十二萬餘本、布哇向二萬本。布哇では日本內地の街頭販賣日たる十一月二十三日に同時に擧行、純益九百餘圓を擧げ、內地に於ては約八千三百圓を收めることが出來た。これ實に海を隔てても結び合ふ主の愛による働きの尊い果といはねばならぬ。

大正十五年七月二日より四日間、京城に開かれた朝鮮地方大會は、十二箇所より五十六名の代員が集まり、本部より山本理事長、上澤主事、龜德理事が出張したが、兒童中心のかかる大規模な協同的集會は、同地方としては初めてなので、有形無形さま〴〵な好影響を齎したことは疑ひない。

要するにこの期に於ける協會は、大震火災罹災の後を承けて、緊縮整備、外に伸びるよりは內に整へる時代だつたといへよう。

第十節　國民教育との提携運動

昭和二年四月、第十六回全國大會は東京本郷組合教會に開かれて滯りなく終つたが、間もなく總主事が決定して、協會はここに新體勢を整へることになつた。その人は協會理事で關西學院宗教々育科に教鞭を取つてゐた龜德一男教授である。

先づ前進運動が開始された。これは前回の大會に決議されたもので、國民教育と日曜學校教育との接近を畫し、融合を圖り、延いては提携にまでも進めようとする企である。長い間の國民教育が主知的に偏したことを、一般が漸く認めはじめて、それに對する方策が論議に上るやうになつた時代の趨向に照して、機宜を得たものといふべきであつた。

行はれた地方は、福井、金澤、富山、松山、今治、柳井、廣島、岡山、津山、倉敷、高梁等の各部會所在地で、北陸地方へは龜德總主事と海老澤理事が、中國四國地方へは山本理事長と、龜德總主事と、上澤謙二が應援した。

その方法は國民普通教育の局に當つてゐる小學校々長及教員達に、基督教々育乃至宗教々育に就いて講演し、又親しく膝を交へて懇談することであるが、至るところの部會の盡力によつてそ

れが實現された。特に岡山に於ては、縣教育會が主催となつて、教育會館で開かれ、田中教育主事が司會し、會衆二百の大多數は視學、小學校長、同教師、幼稚園長、同保姆といふ顔ぶれで、會後居殘つた者五十名。熱心な意見が交換され、眞にふさはしい內容と意義とを盛つた集會であつた。恐らく基督教の講演會を縣教育會が主催したといふやうなことは例のないことであらう。

意外ともいふべきこのやうなことが、事實となつてここに現れたのは、因由遠しといはねばならぬ。由來岡山の地は基督教に殊に日曜學校に好感を有つてゐたが（第一章三節參照）加ふるにこの方面の熱心家たる河本乙五郎議員があつたからである。議員とは氏が市會や縣會に議席を有してゐたからであるが、氏は岡山組合教會日曜學校々長たること三十有余年、嘗に一日曜學校ばかりでなく、市內及縣下日曜學校の聯絡統合に力め、夙くも明治二十年代にその實を擧げたくらゐで『日曜學校視學』といふ綽名を奉られたのも宜なるかなである。大正の交、聖上親しく中國地方へ行幸の際、地方の功勞者を御召出しになつたが、この光榮に浴した者の中に河本氏もあり、而もその御沙汰書の中には日曜學校事業に關するそれも記されてあつたといふ。さういふやうに有力な位置を占めた先輩がゐたので、同地方の日曜學校が公に事をなすのに、他地方では得られない便宜があつたことはいふまでもない。それで以上の會合も行はれたのであつた。

この運動は、基督教及基督教々育といふものを、國民教育の當局者に知らしめ理解せしめるといふ點に於いて極めて好適なものであつたが、これが先蹤をなして、以來各地に同樣の會合が行はれるやうになり、今日に及んでゐることは甚だ意味深い。恐らくこの方面は將來益々開拓さるべきであらう。

是より先、昭和二年九月をもつて、多年の翹望だつた十一箇年に亘る教案が完成出版された。これがために五年前協會に入つて編纂の衝に當つた上澤主事は、その仕事が終つたのと、一方新總主事が決定して、總主事々務取扱の任も解かれるに至つたので、その職を辭した。

この年の夏、世界日曜學校協會から、米國日曜學校界に於いてお嘶の大家として知られた浸禮教會日曜學校局幹事ブロックウエー女史が派遣されて來朝した。女史は東京、大阪、其他の部會の催に於て語り、輕井澤、下ノ關等の教師講習會にも臨み、その明い話しぶり、原理と經驗とをよくも調和した指導ぶりは、聽講者に多くの收獲を與へた。

次第に日曜學校關係者の目は太平洋の對岸、常春(とこはる)の地といはれるカルフォルニヤ州ロスアンゼルス市に注がれるやうになつた。昭和三年七月十一日より七日間、そこで第十回世界日曜學校大會が開かれるからである。東京大會以來『世界大會』といふ聲は、誰にも身近く聞えるやうにな

つたが、今回は日本人三百名が大擧して出席する豫定で、協會本部では早くも宣傳の時期は過ぎて、實際的な段取りに入つたのである。

第十一節　大擧二百代員海を越えて

双葉のいのち地に萠え出でて、朝の歌聲力にをどる、今日のよき日につどはん我等
(折返)　ああうれし樂し、我等日の本、神のみどりご、ああうれし樂し、ほがらに和せよ、
世界の力

いさみし心海路を越えて、風もはる〳〵愛にかをれよ、今日のよき日につどはん我等。

昭和三年六月二十二日、雨ふりしきる横濱港の岸壁から歌聲が繰返し擧がつた。

そこには横づけになつた汽船天洋丸の大烟突からもく〳〵と黑烟が昇り、船と岸壁との間には、テープの紅白紫黃が目も綾にひつばられ、人は黑山のやうに群がつてゐた。

やがて出帆の銅羅(どら)が、人々の胸を異樣にをどらせて鳴りひびき、別れのマーチがかなでられると、船は音もなく動き出した。テープはする〳〵と延びはじめる。『萬歲萬歲』の聲は大波のやうに起つた。その間に交つて『いつていらつしやい』『いつて參ります』といふ甲高い聲が飛び

交ふ。

第十回世界日曜學校大會に向ふ我代員一行の鹿島立である。その歌は武藤重勝作『日本代員のうた』である。

この大會については、協會は岩村清四郎理事を係として、三年も前から準備に着手し、豫定の代員三百は在米同胞を合して略々その數に滿ちたが、遙々内地よりの出席者は百九十五名となり、その内龜德總主事其他の先發隊もあつて、百六十三名が同船することになつたのである。中で最も異彩を放つたのは大分市聖公會日曜學校教師で、同地子供黨の旗頭梅田凡平が、洋服の上に陣羽織を着し、紙の兜を戴き、日の丸の扇を悠々と使ふ桃太郎姿であつた。

かくも多くの同信の兄弟姉妹が、同じ目的を有つて、同じ船中に起臥し、遙かアメリカ訪問の旅に上るといふやうなことは、正に空前の出來事であらう。

本部派遣の代員は鵜飼猛、千葉勇五郎、森田金之助、西阪保治、馬場久成、岩村清四郎の六理事に、龜德總主事、コールマン、川澄明敏の兩名譽主事、石川義一本部員。それに本部から推薦されたのは、牧師中島力三郎、石川四郎、岡崎義孝、本田傳喜、高橋豊吉、安藤兼吉、教師横田榮三郎、向谷容堂、塚本道遠、鈴木衡平、醫師清茂基で、全體二十五名であつた。これは日本の

日曜學校の生徒數に應じて、世界日曜學校協會から割當てられた正代員數である。

船中はまことに賑か、下のやうな係を定めた。集會委員長岩間松太郎、禮拜係高橋豊吉、講習會係横田榮三郎、親睦會係堀田達治、運動會係本城敬三、音樂係阪田素夫、ニュース委員長石田友治、感想及日記係松本操、文藝係川島唯次郎、エピソード係高橋皐三、意匠係松香雄二、班長、一等團員係西阪保治、二等團員係鈴木衡平、三等團員係奥村きく子、德永操、臼井長三、河村幸次郎、寫眞委員梅田凡平。

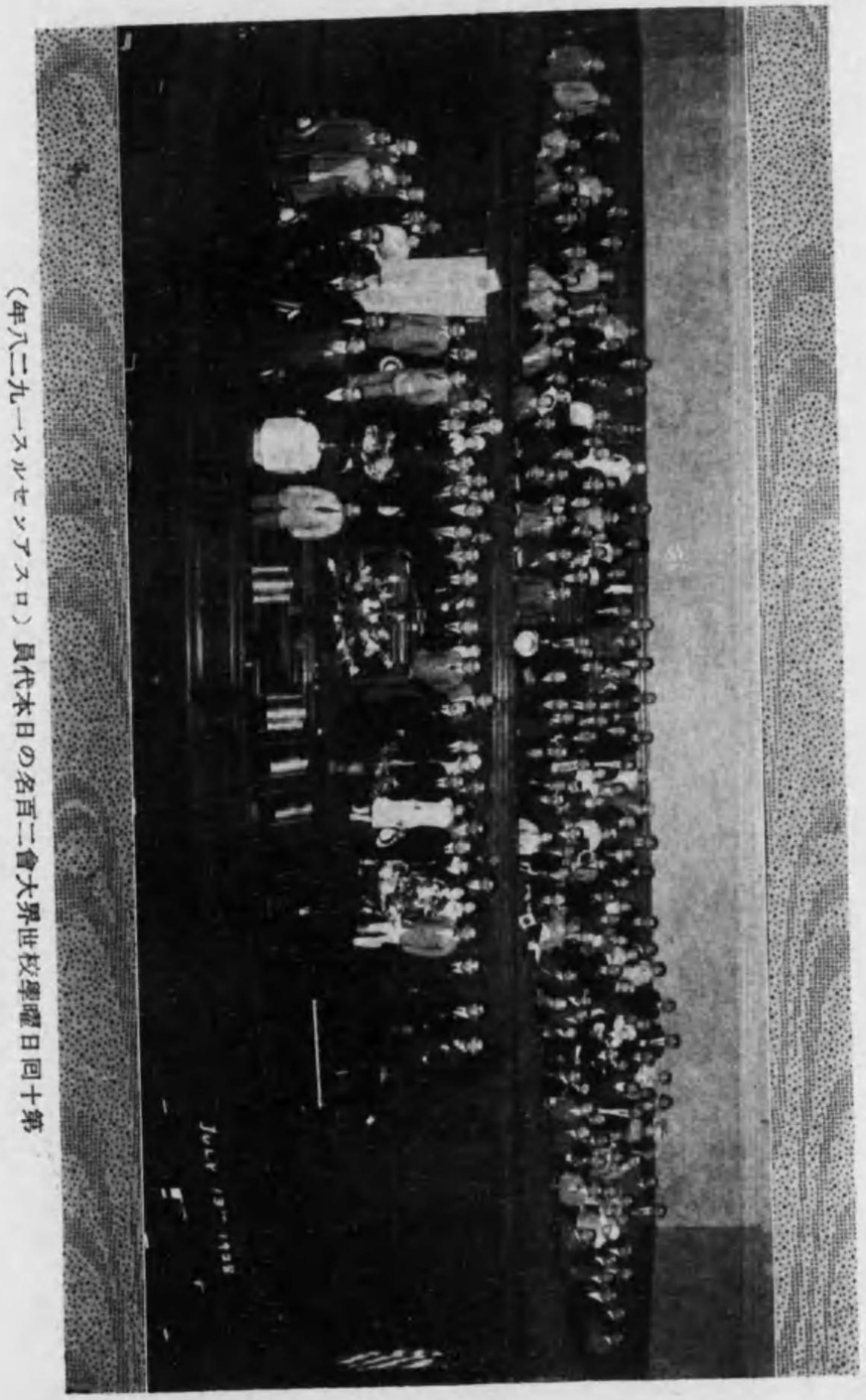
かくて禮拜もあり、親睦會もあり、運動會もあり、講演會もあり、音樂會もあり、新聞は最近最新のさま〳〵なニュースを滿載して發行され、徒然で退屈するやうなことは一向になかつた。

それに同じく大會へ行く朝鮮の代員二十一名、支那の代員二十名、比島の代員七名が乘合せたので、交渉委員として朝鮮係岡崎義孝、支那係村上正次、比島係紫垣正弘が選ばれ、時に全部を網羅した大親睦會が開かれたり、競技會が催されたり、輪技げその他でお互に秘術を盡くし、遂に比島側が優勝するなど、面白い國際的交歡が行はれた。

太平洋上の常夏の島布哇ではユニオン教會附屬館で、知事以下の歡迎會に出席。大急ぎでホノルルの町を見物。再び船上の客となつて、七月六日桑港へ着いた。滯在三日間在米日本人及白人

の心からなる歡迎を受け、九日朝、三度天洋丸に身を托して十日朝、ロスアンゼルス府の門ともいふべきサンピドロ港に上陸。數十臺の自動車に分乘。警護のモーター・カップ（自動自轉車に乘る警官）を先頭に、蜿蜒長蛇の陣をなして羅府に乘込んだ光景は、實に壯觀であつた。翌日からいよ〳〵大會は、優に一萬人を容れるといふシュライン・オーデトリアムで開かれた。集まる者は五十箇國七千六百三十一名。これに主人側の人々、傍聽者等を加へて、流石に尨大な會場も、いつもいつぱいに人が溢れた。

今次大會の標語は『聖國を臨らせ給へ』で、『基督教徒の世界的親交の教育』といふ題目を中心にして進められたが、會期中我が代員は、先づ第一日開會式の歡迎に對する答辭には、アジアを代表して千葉代員が勤め、第二日以後三回あつた世界的親交に關する四種の懇談會には、鵜飼、千葉、森田、馬場、岩村、横田の諸代員が、二回乃至三回に亘つて主論者となつて、十五分乃至三十分の演說をした。第三日目には國又は地方の會といふのが催されたが、これは集まつた國々の代員が、自分でプログラムを作つて、それ〳〵の會場で、自國の現狀を報告する會で、入場は自由であつた。日本のためには三千人を容れる第一メソヂスト教會が充てられたが、滿員の盛況で、千葉代員が司會し、鵜飼代員は『日本に於ける日曜學校の歷史』岩村代員は『日本に於



第十回世界日曜學校大會に出席した日本代員（ロスアンゼルス）

ける讃美歌』馬場代員は『第八回世界大會の日本に殘せる影響』の題下に、それ〴〵語つた。その間に在米同胞の第二世子女が、美しい振袖姿で合唱したのは、一同の目と耳とを欹たせた。その日の夜、各國日曜學校協會からの公式のメッセージが披露された際は、日本側は龜德總主事が起つて述べ且つ訴へるところがあり非常な好感を與へた。

第五日は日曜で、午後、アロヨセコ公園に於て、日本人だけの歡迎園遊會が催されたが、出席者三千人。此地に於ける同胞の間に嘗てない旺んな會合であつた。ここで子供に話したのは岩村、西阪の兩代員、大人に語つたのは千葉代員。御馳走は和洋とり〴〵の豐富なものであつた。この夜、四萬の座席を有するといふ野外大集會場ハリウッド・ボールで『萬國うたの夕』といふ音樂會があつたが、日本の婦人代員三十名程晴れの裾模樣で出場して、滿場の拍手を浴びた。更に二日つづいた大會は、最後の夜、市の郊外で行はれた壯大絶美ともいふべき『キリスト野外劇』を掉尾のおみやげとして幕を曳いたのである。

この大會に於て、世界日曜學校協會に劃期的な組織の變更が決議された。それは加盟諸國の團體を英國區域と北米區域に二分して、前者はヨーロッパ大陸と印度を包含し、後者はその他の凡てを網羅する。本部は依然北米ニューヨークに置くが、總主事は兩區それ〴〵任命され、兩區域を連絡

し協同の便を圖るため、兩區域より三名づつの特別委員が擧がつた。そして總主事には北米側はホプキンス博士が、英國側はケレー・ボンナー博士が選任されたのである。猶我山本理事長は十一名中の副會長の一人に、鵜飼副理事長は十名中の方面委員の一人に、龜德總主事は實務委員の一人に推された。

大會前後桑港羅府の在留同胞が寢食を忘れる底の歡迎ぶりは、涙ぐましいものがあつたが、それはリバーサイドに至つて遂にクライマックスに達したのである。

リバーサイドの町は羅府の南六十マイルにあり、附近一帶に出來るオレンヂの集散地となつてゐるが、この町が有名になつたのはフランク・ミラー翁經營のホテル、ミッション・インのためである。旅館は加州開拓時代に傳道したスペイン系舊教の會堂に似せて作られ、いかにも風雅な落ちついた建築ぶりは、周圍の閑寂な景色と調和して、ここへ來るとゆつたりと浮世から開放された氣分になる。町はづれにルビドーと呼ばれる小山があるが、ミラー翁は頂上にわざと粗末な十字架を建てた。それは主イエス在りし日の實感を起させるためで、さういへばその小山はゴルゴタを聯想させる。ここでよく野外集會をするが、殊に毎年イースターの早朝に行はれる山上の禮拜は、一つの名物になつて、海外にまでも傳へられた。これは皆ミラー翁の創案である。リバ

サイド町民は翁の功績を長く傳へるため、ルビドー山頂に近いところに記念塔を建て、橋を架した。その橋を『平和橋』と名づけたのは、翁が熱心なクリスチャンで平和主義者だからである。殊に翁は大の親日家で、嘗て『平和の大使』として人形を日本に贈ることを、ギュリッキ博士と共に主唱し、それを實現した程なので、今回の世界大會に際し、多數の日本代員が來ると聞いて、周到な歡迎の計畫をしたのである。

歡迎は先づ大會最終夜の『キリスト野外劇』の一等席に日本代員を招待することから始まつた。次で翌十八日、一行百九十五名に在加州の同胞代表を加へた約三百名は、七十臺の自動車に分乘して、リバーサイドの町に向つた。

ミッション・インの前庭には日本人會の出張所が設けられ、準備萬端整へて待つ。午後四時、ホテルのチャイムが鳴りひびく中を、一行到着。各々所定の部屋に荷物を置くと、別館前庭に案内された。館の名が『富士館』といふのもうれしいが、庭の結構布置悉く日本式で、まるで東京大阪あたりの富鼓のところへでも行つたやうなのには驚かされた。出された冷い飲物とケーキとに舌鼓を打つてゐると、日米兩國の國旗で飾られた音樂堂から、奇しき音樂が奏で出されて、耳の御馳走をはじめたのである。

少憩の後、町から差廻されたリバーサイド軍樂隊と映畫班に迎へられた一同は『みくにをきたらせたまへ』と記した錦の旗を押立てて、裾模様姿の婦人を先頭に、列を組んで、商業會議所、町役場、郵便局前を通つて、當夜の歡迎晩餐會場たる第一組合教會ビリグリム・ホールに入る。出席者四百九十名。晩餐終つて階上へ導かれれば、そこは美々しく飾られた歡迎會場で、來會者一千餘名立錐の地なく居並ぶ。ガーデナー博士の祈禱の後、ミラー翁が壇上に現れるや、會衆は忽然として熱狂の頂點に搖り上げられた。急霰のやうな拍手と喝采にめぐられて、翁が簡單な然し愛に溢るる歡迎の辭を述べると、中には感極まつて目をしばたたく者もあつた。次で英文小說『武士の娘』の著者オースチン夫人、リード博士、蓬野日本人會長、竹友同書記長等の歡迎の辭があり、ヤンガレン孃の獨唱につづいて、水澤領事、鵜浦牧師、鵜飼、千葉兩代員の答辭があり、一行中の聖歌隊の合唱、岩村團長の感謝の挨拶の後、取出された優美な日本人形數種、これをミラー翁に献げると、翁は喜色滿面、懇ろな謝辭を述べた。終りに歌ひ出された米國と日本の國歌、ギリス博士の祝禱をもつて、九時過ぎ樂しい意義深い集りは幕をおろした。

時に司會者たるミラー翁の愛婿ハッチング曰く『皆さん、お疲れでせう。すぐホテルへ歸つておやすみください。明朝は三時半に、チヤイムが讃美歌の譜で鳴り出してお起しします。さうして臺所にコーヒーとパンが用意してありますから、それで御辛抱下さつて、すぐ自動車へお乘り下さい。さうしてルビドウ山上へ參りまして、イースターと同じプログラムで祈禱會をしませう。それが濟んだらお歸りになつて、中庭に設けてある朝食のテーブルで、今度はお腹いつぱいおあがり下さい』

一同は笑つた、笑ひながら胸ををどらせた、胸ををどらせながらお禮をいつた。

翌早朝の山上の集會は、組合教會聖歌隊の合唱をもつて始まつた。仰げば山頂高く羽ばたく日米の大國旗は朝靄に包まれてほの〳〵と、その靄の中からひびき渡る莊重なトランペットのひびきは、天軍が舞ひおりてきたかと思はれる。バンダリップ作の詩は司會者ハッチングによつて朗讀され、ギリス博士、岩村團長の祈をもつて終つた。

魂まで搖り動かされた感銘を抱いて歸つてくると、中庭には清楚な食堂がしつらへられ、白人の婦人が日本の浴衣に日本の帶をしめて給仕されたのには、一同アッといつてしばしは食事も忘れて眺め入つた。食後、ホテル内を見物、美術館には皆目を見張つた。いよ〳〵お別れとなると、めい〳〵にその日の朝刊新聞が配られるといふ周到さに、一同は盡きぬ惜別と溢るる感謝を胸いつぱいにたたへて自動車中の人となつたのである。

それよりヨセミテ公園を見物し、サクラメント市へ出で、ここでA組とB組の二班に別れ、B組はデンバア、カンサスシテー、セントルイス、コロンバス、ピッツバーグ、ワシントン、バルチモア、フイラデルフイヤ、ニューヨーク、ボストン、バフアロー、ナイヤガラ瀑布、シカゴ、ミネヤポリス、イエローストーン國立公園、シヤトル、さうしてポートランドへ、殆ど全米の主な都市へ足迹を印して、八月二十九日、サイベリヤ丸で桑港發、九月十四日、無事横濱に歸着した。

A組はサクラメントを辭して、ポートランド、タコマ、シヤトルと、太平洋沿岸を北に上り詰めて、七月二十八日、加賀丸に搭乘、同市發ビクトリヤを經て、八月十三日、無事横濱に歸着した。

その至るところで、米國人側と在留邦人側と兩方から歡迎され、一行は好意と御馳走の中を泳いできた趣があつたが、その内に特記すべき二つのことが織込まれた。

その一つは、B組が日本日曜學校界の恩人故ハインツ翁（第三章一節、二節、四節、五節、第四章三節參照）の墓を展したことである。墓はピッツバーグ市の郊外にある。一同墓前に整列して、讃美歌二百四十九番をうたひ、廣津梅光女學院長聖書を讀み、馬場代員祈をささげ、岩村

團長頌德の辭を述べ、二つの花環は岩村馬場兩氏によつて墓前に供へられ、その光景は記念のため活動寫眞に收められた。日本の日曜學校運動のために滿心滿身の力を盡くしたこの人は、天上に於いて、恐らく滿顏のほほゑみをもつて、この有樣を見られたであらう。

それは七月三十一日のことであつたが、翌日はハインツ鑵詰會社で歡迎午餐會があり、會社のマッカフアテー重役、ネーロー國會議員、クレーグ教會同盟會長、デットワイラー歡迎委員長其他の歡迎の辭があつた。食後工場を參觀、一糸亂れぬ整頓ぶりには舌を捲いた。翌八月一日、ワシントン行の汽車に乘るべく驛へ來ると、恰もハインツ翁の二令息にバッタリ遇つた。二人は日本代員の一行に遇はうとして、ネブラスカの避暑先からわざ〳〵歸つてきたとのこと、『間に合はないかと思つたが、遇へてこんな本望なことはない』と、握りしめる手に限りないまごころが傳はつて、一同深い感激に打たれたのであつた。

その二は、これもB組が世界日曜學校協會長だつた百貨店王ワナメーカー（第四章三節、五節參照）のフイラデルフイヤの百貨店本店に招かれたことである。案内された店内大ホールには、二間四方もある絹製の大日章旗が、ゆら〳〵と二十八本もさげられてゐる。それに見とれてゐると、パイプオルガンが鳴り出した。世界に幾つしかないといはれる大きなものである。耳を傾け

ると、おお、それは『君ケ代』ではないか。時も時、場所も場所、餘りの意外さに、喜びは胸につかへて涙ぐみつつ、一同おのづからそれに合はせてうたひ出でたのであつた。ワ氏の私室を見て、深い追慕の情に打たれ、この多忙な店の中に靜かな禮拜堂があるのに驚きつつ襟を正して少時祈禱會を開き、出でて店内を巡覽。宏大、華麗、殷賑、而して能率的規律的な執務ぶり應對ぶりに、ただ感嘆するのみであつた。さうして歡迎午餐會に臨み、午後は、快速艇ジョン・ワナメーカー號に乘つて、デラウエヤ川を上下したのは爽快極まりなかつた。

兎に角二百に垂んとする代員が、大擧して海を横切つて行つたことは、何といつても大會の花であり、又八年前東京大會に於ける好印象が猶鮮かに殘つてゐたので、好意は更に好意を生み、親善は更に親善を加へて、祝福された結果を齎したのである。

日本日曜學校協會の功勞者と日本日曜學校協會

第五章　充實時代

——昭和六年頃より最近まで——

第一節　堅實な成長の段階

大樹の年輪を見よ。柔かく膨脹する時と、固く收縮する時と、交互してゐる。膨脹は卽ち外に發展する時期、收縮は卽ち內に充實する時期である。かくあることによつて大樹となる。これは成長の法則である。人の世のこと皆さうである。日曜學校協會もこの例に洩れぬ。

大正九年の東京に於ける世界大會は、俄然として協會を發展の大道に押上げ、未曾有の大震火災に見舞はれても、この勢ひは頓挫し去るやうなことはなかつた。然し發展期はいつまでもつづくものではない。惟ふに二百代員が海を越えて渡米した華かな幕を境として、次の充實期に移つたと觀られよう。然り、かくあることによつて、協會は成長の階段を昇りつつあるのである。

而も年代も大正より昭和へと變つた。この充實期は、先づ畏き目出度き出來事をもつて開幕されたのである。今上陛下御卽位御大典を行はせられるに際し、全國の日曜學校生徒のまごころ

を籠めた置物を、宮內省を通じて献上したことがそれである。それは基督の立像に日本の兒童を配した丈二尺の純銀製で、彫刻家都賀田勇馬の謹製に係るものである。全國生徒より集まつた金額は千四百三十圓九十五錢であつた。

協會の發展期にふさはしく、特に對外關係に於て重要な役割を受持つた世界日曜學校協會特派員のコールマン名譽主事は、日本に於ける日曜學校事業が顯著な發展を遂げた今日、同協會に於て最早日本へ主事の特派を必要と認めなくなつたため、退職歸米することになつた。昭和四年四月、大阪に開かれた第十七回全國大會はこれを承認し、感謝の決議と共に記念品贈呈の件を滿場一致で決定した。同氏は明治三十九年、フレンド派の宣教師として渡日し、專ら青年の教化指導に力めたが、後、日曜學校事業に關係し、遂に大正三年、世界日曜學校協會派遣日本主事に任命されたのである（第三章六節參照）。五月四日、東京有樂町鹽瀨本店樓上で送別會開催、集まる者約八十名。席上、龜德總主事は大會の感謝決議文を朗讀し、大花瓶とハッピーコートを贈つた。これに對しコールマンの感慨に滿ちた謝辭があり、なか〳〵盛會だつた。さうして同月二十四日、横濱解纜のサイベリヤ丸に乘船。二十四年間居住した日本に別れを告げたが、日本の日曜學校界に寄與した貢献は特筆大書さるべきである。

コールマンを横濱に送つて三ヶ月を經た九月十六日には、反對に世界日曜學校協會總主事ホプキンス博士を横濱に迎へた。同氏の旅行は東洋關係諸國に於ける日曜學校事業の實際視察のためで、協會幹部と屢々會見、東京に於て數回の集會及講演會を催し、龜德總主事に伴はれて鎌倉、京都、神戸、大阪、北九州の諸市を訪問。十月一日、下關から渡鮮。支那、比律賓を巡回して、十二月三日神戸着、直ちに東上。同四日主婦の友社樓上に於て日曜學校課程協議會を開いた。これはホプキンス總主事の慫慂によつて召集されたもので、日本の日曜學校界に於ける教案及教材に一大改革を與へ、より國情に適し、より兒童の生活に親しいものを編成しようとするのが目的である。集まる者、山本理事長、鵜飼副理事長、笹倉彌吉、佐藤元重、岩村清四郎、小崎道雄、安村三郎、海老澤亮、クレーマー各理事、小崎名譽理事、ウダド、ヂレット、アキスリング、ウエンライト各宣教師、松本卓夫、都留仙次、田泉保興、由木康、村岡花子。本部より龜德總主事、石川義一、河合卯一、それに當のホプキンス博士を加へて二十三名、鵜飼副理事長の司會で開會、劈頭博士は『宗教々育課程の根本問題』と題して縷々陳述され、奬勵を與へて終つた。次で協議に入り、龜德總主事の『現代日本に於て使用せらるる教案』に就いての報告、馬場理事の『宗教々育に於ける指導者の養成』に關する意見の代讀あり、これについて各自所見を開陳して午前のプ

ログラムを終り、午後はウダドの『米國に於ける課程構成の傾向』に關する發表あり、西阪理事の『日曜學校教材の現狀』錦織理事の『日本に於ける日曜學校課程には何が最も必要なりや』との文章の代讀あり、以上の諸問題を中心に各自又意見を吐露したが、遂に『日曜學校課程協議會』を常設機關とする希望が出た。博士はこれに對し補助を申出でる程の熱心をもつて始終全會を指導し、豐かな教示や暗示を與へ、夕刻閉會した。

ホプキンス總主事はこれを置土產として、翌五日横濱出帆のマッキンレー號にて歸米の途に就いたが、この計畫を進めるため、常任委員として山本忠興、田頭千代吉、田泉保興、安村三郎の四氏が當たることになつた。さうしてこれが、後に各派共通の新しい教授細目が生まれる伏線となつたのである。

昭和五年三月末日をもつて龜德總主事の任期は終るので、理事會はその重任を決議したが、同氏は一身上の都合のため固辭して受けない。止むなく辭任を認め、鋭意後任を物色して、安村三郎牧師に白羽の矢を立てて交渉したところ快諾を得、同年七月、就任の運びになつた。氏は神奈川バプテスト教會を牧し、協會理事たり、青山學院出身で、卒業後渡米、デンソン大學其他に學び、歸朝後關東學院宗教部主任、バプテスト教會宗教々育部委員等に擧げられ、特に聲樂に秀で

ゐる。

新總主事を迎へた協會は、直ちに日曜學校創始者レークス百五十年記念運動の準備に着手した。十月第二日曜をもつてその日と定め、先づ馬場理事に囑して、レークスの人と事業とを紹介し、併せて日曜學校の重要性を一般に訴へる稿本を起稿し『日曜學校のいはれ』と題するパンフレットとして、十一萬餘部を印刷し、全國加盟日曜學校に配付して、その手を通じて、各家庭、小學校の先生等に行き渡らせ、全國的に日曜學校事業に對する注意を喚起しようとの計畫を樹てた。當日の十二日は各部會で思ひ思ひの催があつたが、東京部會聯盟では富士見町教會に記念會を開き、安村總主事司會の下に、今村聯盟長の開會の辭、山本理事長の記念の辭、賀川豐彦氏の記念講演等があり、田中文部大臣、チリー英國大使、牛塚東京府知事、永田東京市長、林帝國教育會長、海老澤日本基督教聯盟總幹事等から祝辭を寄せられ、席上、東京部會聯盟の功勞者として松野菊太郎、山下岩太郎、岡本執の三氏を表彰した。

岡本氏に就いては前に述べたが(第四章八節參照)松野氏は麻布クリスチャン教會牧師で、東京部會聯盟の創立に盡力され、長く聯盟長たり、又本部初代の監事であつた。山下氏は日本銀行員であるが、夙くより高輪日本基督教會日曜學校教師として、又日曜學校協會城南部會幹事として

奔走、日曜學校關係の會合に氏の顏を見ないことはないといはれる勤勉ぶりで(第四章一節參照)先年一部の人々により日曜學校教師就職三十年感謝會が開かれたくらゐである。當日の出席者は凡そ五百名。盛會であつた。

次週第三日曜の十九日には、青山學院講堂で、東京部會聯盟主催の世界日曜學校日生徒大會が開かれ、參加校八十三、會衆三千に上つたが、七十二歳の田村直臣翁が、病軀を押して演壇に立ち、五十年前行はれたレークス百年記念會(第一章三節參照)の回顧談をしたのは、聽衆に多大の感銘を與へた。

因に田村翁は、前年卽ち昭和四年に、同じくレークス記念として、平福百穗畫伯に富士山、上村松園畫伯に日本婦人之圖の揮毫を乞ひ、これを四十五萬枚のカードに複製し、英文を附して海外六十箇國の兒童に配布するの壯擧を遂行したのであつた。

レークス記念各派聯合講習會は、メソヂスト、日本基督、組合、バプテスト、福音ルーテル六教派の贊助と協力とを得て、全國を三分し、中部を輕井澤、北部を札幌、南部を福岡と定め、それぞれのプログラムにより開會、聽講者總數三百五十名を得て、昭和五年度に於ける協會の一大事業は滯りなく結了を告げたのである。

かくて協會は段一段堅實な階梯を登つて行つたが、その最も顯著な重大な又具體的な現れとして、多年翹望の會館建築が實現するに至つたのである。

第二節　十年翹望の會館落成

昭和四年十一月、日本日曜學校協會は、重大な珍客を北米合衆國から迎へ、十九日に、その歡迎午餐會を帝國ホテルに開き、阪谷芳郎男を初め、小林富次郎、和田嘉衡、清水釘吉、服部金太郎、關屋貞三郎、關根要八等の名流に、アキスリング、ウエンライト兩宣教師、協會側よりは山本理事長、當時の總主事龜德一男其他在京の理事監事全部出席した。澁澤子爵は微恙のため代理を遣はされた。

珍客とは、十一月下旬東京に開催される萬國工業會議に、米國側の委員長として渡日されたスペリー博士である。博士は七年前に一度來朝され、而も我會館建築資金の米國側委員長であり(第四章五節參照)大概舊知の間柄なので、打解けた親しみ深い會合であつた。席上、博士は全米日曜學校生徒から十五萬圓の寄附を募る計畫が頓挫したことを語り、然し自分は二萬圓を引受け、世界日曜學校協會の手を經て寄附したいと申出で、自らペンを執つて契約書に署名した。そ

の責任を重んずる眞面目な精神、而も快よくそれを語る態度、宛然基督教的紳士の典型を見るやうな氣がして、皆打たれたのである。

會議は無事に終り、博士は日米親善のために盡くした功により勳二等瑞寶章を授けられる光榮に浴し、十一月二十六日、横濱出帆歸米の途に就いたが、翌年六月十六日、卒然として天國に籍を移されたことは、愛惜哀悼に堪へない。

而も人は去つても、印象は貽り、感化は働く。あの契約書への署名は、建築運動にたしかに一石を投じたものであつた。眞劍な奔走が始められ、遂にメソヂスト教會員にして建築請負業間組社長たる小谷清の好意と理解を得、山本拙郎學士の設計に係る近代式ゴシック四階建の建築に取りかかることになり、起工式を擧げたのは昭和五年十一月六日であつた。工事は豫定の通りに進捗し、翌年四月五日復活節の午後に上棟式を擧げ、六月十六日、遂に献堂式を擧行するに至つたのである。

これより遡き、基督教關係の諸團體の本部を同じ建築物の中に包含することを計畫して、銀座街頭に基督教ユニオン・ビルデング建築の議が起り、日曜學校協會も加入を勸誘されたが、既に神田に土地を有し、多年獨立建築の方針で進んで來てゐるので辭退した。其後基督教聯盟も該計畫

から脱退したが、この二團體は自然歩み寄り、協議の結果、聯盟事務所を會館内に置き、その永代使用權のために一定額を出資すること、同時に會館の名稱を『基督教會館』として、將來名實共に我國基督教運動の中心となるやうにと申出でたので、協會當事者は熟慮審議の末、聯盟と協會と共に基督教の協同運動の指導機關であつて使命を同じくすること、一は大人の教會を、一は子供の日曜學校を目標とするもので、兩々相合すれば全教界を覆ふものたること、故にそれが共に在ることは確に名實共に基督教運動の中心となり得べきことを信じて、その申出を容れ、名稱を『基督教會館』とし、通稱を『日曜學校會館』とし、入口の上に『財團法人日本日曜學校協會』の文字版を掲げることとなつたのである。

會館は鐵筋コンクリート四階、地階の汽罐室や物置、屋上の機械室を加へて、總建坪三百五十七坪餘。一、二、三階を通じて十七の貸室があり、一階は店舗向、二、三階は事務所向。三階の五室は基督教聯盟が占め、四階は全部協會の使用に充てられ、事務室、總主事室、應接室、圖書室、講堂等に分かれてゐる。講堂は約二十一坪であるが、ここは特に『ハワイ・ルーム』と名づけられる。それは布哇聖書學校々長リチヤーズ氏を初め、同校生徒達が、會館建築に寄せられた非常な厚意を記憶するため（第四章九節參照）であるが、この部屋の設備と什器、例へばピア

ノ、電氣蓄音器、机、椅子など、悉く布哇からの寄贈によるものである。

さて献堂式は午後二時から新館樓上に於て、本部、部會、後援會各役員、教會各派代表者、一般日曜學校教師等、滿堂の出席を得て、安村總主事司會の下に始められた。先づ莊重なチヤイムが鳴り出し鳴り終れば、一同讃美歌三十五番をうたひ、龜德理事の聖書朗讀、小崎理事の祈禱。次で藤川監事より會館建築經過報告あり、東京オラトリオ協會の合唱の後、山本理事長は起つて歡喜と感謝に溢れつつ献堂の式辭を述べれば、つづいて捧げられた鵜飼副理事長の献堂の祈は感極まつて聲涙共に下るの思ひがあつた。それより東京部會聯盟代表由木康、基督教東京教役者會代表松原英一、日本基督教聯盟代表千葉勇五郎、宣教師同盟代表ケナードの祝辭、阪谷男爵の祝辭代讀、文部大臣代理の祝辭朗讀等あり、更に建築者間組幹部の紹介をもつて式を終つた。阪谷男は過般來重症で、まだ警戒期にあり、一切外出を禁ぜられてゐるので、書翰を寄せたのであるが、書中に於ける『人類生存の狀況に想到して、深く宗教の必要大切なることを痛感致居候。人類純眞の平和幸福は、唯單に宗教心の修養に依りてのみ得られ候處と確信致候。隨て青年兒童の宗教心修養奬勵の必要なることを最も深く感じ申候』の一節などは、衷心の聲といふべく、來會者一同の胸に訴へるものがあつた。

この年は又恰も協會創立二十五年に相當するので、この際功勞者先覺者を表彰する意味で、肖像額を長く會館内に掲げることになり、その表彰式をこの晴れの舞臺で、引きつづき行つた。功勞者として小崎前理事長、鵜飼現副理事長、先覺者として故三戸吉太郎、田村直臣の兩氏。外人功勞者として故ワナメーカー、故ハインツ、故スペリー、故ブラオンの四氏である。生憎小崎、田村兩氏とも健康上の關係で缺席されたので、鵜飼氏一人に對し、滿場起立のうちに理事長から感謝狀を呈した。次でアイグルハート夫人の獨唱、頌榮四百六十二番一同齊唱、千葉理事の祝禱をもつて終りとなつた。式の時間は短い、然し意義は深い。その感懷に至つては綿々として盡きぬものがあらう。

式の始まる約一時間前、ハインツ翁の肖像畫が協會に配達された。これは遙々ピッツバーグの令息から送られたものであるが、その時に間に合つたのもただごとならず思はれ、童顏微笑生けるが如きその油繪を眺めて、一同改めて深い感慨に誘はれるのであつた。猶その他のものもつづいて到着したが、殊にブラウン總主事のは十數年間校長を勤めたブルックリンのメソヂスト教會日曜學校に掲げてあつたのを、協會に讓られたものなのである。

顧れば世界大會當時、後援會の魁となつた大隈侯爵は既に亡く、先導となつた澁澤子爵は老後

を靜かに養つてゐられる。獻堂式數日前、山本理事長と安村總主事とが子爵を訪問して落成の報告をすると、双頰に紅を潮して喜ばれ『流石は基督教信者の方々のお仕事だ。十年間その約を變へず、苦心努力、遂にこれを實現せられるに至つたことは、ただ感謝する外はない。失禮ながら自分は老年のこととて、既に忘れて居りました』といはれたといふ。

表の電車通に出て、會館に直面して立つてつく〴〵眺めれば、白堊色の一廓は、周圍の風物を抽いてポッカリと浮かぶやうに建つてゐる。その姿はげに花嫁の清楚、天使の清淨を思はせる。更につく〴〵と眺め入れば、おお、何十萬の子供の笑顔がうつつてゐるではないか。これこそ、あの雨の日に街頭に鉛筆を持つて立つた子供達だ。その滿足はさこそだらう。尊い建物だ、有難い建物だ。ああ、その前におのづから頭がさがるよ。

第三節　青少年を基督へ

南半球に於ける最初の世界大會が、いよ〳〵幕を切つて落とすことになつた。昭和七年七月二十五日から三十一日まで七日間、南米ブラジル國の首府リオ・デ・ジャネロ市で開かれる第十一回世界日曜學校大會がそれである。協會では早くから代員募集に着手したが、折から經濟界を襲

つた深刻な不況と、開催地が遠隔なため、申込者は僅か二名だつたが、それも結局取消となり、內地よりは安村總主事一人が凡ての任務を負うて出席することになつた。

五月十七日、神戸出帆の大阪商船會社の汽船モンテ・ビデオ丸に乘込んで、英領香港、印度のコロンボ、南アフリカのダーバン、ケープタウン等を經由し、七月二日、サンパウロ市に上陸した。豫てサンパウロ州在住の邦人十名が、大會に出席することになつてゐたのである。ところが政治上の紛紜から同州內に內亂が勃發し、交通が危險だといふので同地に滯在して形勢を窺つてゐるうちに、いよ〳〵開會期日も切迫したので、押して出かけたが、豫定の十名は全部中止して、全く安村總主事一人で參加することになつたのである。前回の羅府大會の時の二百名と對比して、これは又何たる相違であらうか。而も內亂のため或る處は鐵道が不通になつたり、屢々荷物其他の臨檢を受けねばならなかつたり、非常な不便と、苦勞と、時には危險をさへ經驗して、普通十二時間で達するところを滿四日もかかつた。それも在留同胞の一人小林美登利氏が格別の厚意をもつて、その四日間を東道の役を勤めてくれたので、ほんたうに助かつたのであつた。かくて開會四時間前といふ際どい時刻にやつと大會幹部の宿所パレス・ホテルに飛込んだ時は、案じながら待構へてゐたホプキンス總主事その他が兩手を出して抱きかかへて喜んだ。

大會の標語は『活ける基督』、會場は市立劇場、集まる者は世界三十三箇國から一千二百名。偶像と制度の宗教が跋扈してゐる南米の宗教界に、又ともすればその風に泥まうとする傾向あるそこの基督教に、多大の覺醒と奬勵を與へ、又來會者には各國各民族の間に今も活きて働き給ふ基督に對する再認識を迫り、そのために勞し努めることを光榮とする動機を强めるのが、この大會の使命であつた。

日本側は前大會には代員が多勢なために評判の種となつたが、今回は唯一人のために又注意を惹き、持囃された。『日本』といはれれば、いつも安村總主事が起たねばならぬ。開期一週間中正式の會合で語る機會を與へられること十二回、報告會の司會といふ大役にも當てられた。大會中の呼びものの一つは、嘗て東京大會の時もさうであつたやうに、アウガスチン・スミス教授指導のパゼントであつたが、その技は更に一段の妙を加へたやうに見られた。

閉會式が『往きて福音を宣べ傳へ、多くの人々を弟子とせよ』との聖句を基調として行はれた時は、いづれも心燃えて自己の持場に新しい使命を再發見して、市立劇場の門を出たのである。

大會の役員は、會長に英國のマッキントッシュ卿、常議員會長に米國のワイグル博士、總主事に英國側ケレー・ボンナー博士、北米側ホブキンス博士、いづれも重任。日本側からは十二人の

副會長中の一人に山本理事長が、方面委員の中に鵜飼副理事長が擧げられたことも從前の通りである。

かくて安村總主事は、歸途北米を廻り、南加の日本人諸教會を歷訪し、三萬四千マイル、四箇月半の行程と日子とを盡くして、十月一日故國の土を踏んだのである。

世界の表の運動も進むが、國の內なる仕事も忙しい。第十九回日本大會は、昭和八年四月一日より三日まで、東京本鄕中央會堂に開かれたが、その標語は『少年をキリストへ』であつた。少年とは十四五歲から十八歲くらゐまで、學校にすれば中等學校時代、人生の時期にすれば靑年前期を指し、子供と大人の間たる過渡期に屬するものである。從つてこの期は心身共に動搖し、感情に走り、衝動に驅られ、誘惑に陷り易く、折角過去に於いて築いてきた性格上の良い習慣も、好ましい心性も、一朝にして破壞される時である。日曜學校を離れ去る所謂『逸出期』もこの年齡で、正に『人生の一つの危機』なのである。

だから此期に宗教々育を一層力あるものたらしめ、彼等が教會生活に入つて眞のクリスチャンとなる門を開くことは極めて重大な問題で、大會はここに改めて深甚の注意を拂ひ、對策を講ずることを決議するに至つたのである。そのために次期大會までの二年間に一千圓の特別豫算を承

認するや、鵜飼副理事長は起つて、これがためにこの席上に於て初穂をささげたしと動議して奬勵するところあり、全員これに賛成し、直に二百七十二圓三十錢の申出を見たのであつた。而して少年傳道委員として、龜德一男、岩村清四郎、小出正吾、冨永正、安村三郎の五氏が擧げられ『少年傳道は教會の生命線』なる日本基督教會と協同の標語を掲げたポスター及同題のパンフレットを印刷して、加盟日曜學校に配布し、又各地の講習會に於いて出來るだけ少年傳道に關する指導をすることにしたが、更に昭和十年四月、神戸に開かれた次の第二十回日本大會は『青少年と信仰生活』なる標語の下に開會され、全國各地より特に中等學校一年乃至五年まで百六十餘名の青年男女を召集し、奉仕、聖書、祈禱の三組に分かち、それを一二年、三四五年の初級上級二組づつに、更にそれを男女二組づつに、都合十二組に分けて、十二人の指導者を配し、協議會を催し、それ〴〵の方面より信仰生活の實踐を懇談し究明した。又分團研究では『青少年の指導』に主題を置き、これを四班にして、A組『青少年と禮拜』は田頭千代吉、B組『青少年と娯樂』は錦織貞夫、C組『青少年と社會』は竹内愛二、D組『青少年と教會』は馬場久成等の指導の下に、實際的に研究されたが、遂に將來二箇年に亘り、青少年の信仰指導を高調する旨の大會決議が通過したのである。

日本日曜學校協議會理事と員議評（昭和十年四月二十日）

この企は全國的に反響がひろがり、以後日曜學校界は改めて青少年問題に深甚の注意を拂ふやうになり、少年禮拜や、青少年協議會や、青少年大會のやうな催しが、各地に行はれるやうになつたことは、見逃し難い趨勢である。

是より曩き昭和八年九月、安村總主事任期滿了に際し、協會は大英斷をもつて當分總主事を置かず、在京理事が協力してその缺を補ふことにした。日曜學校誌も、毎月八九十頁の分量のものになつてゐたのを約半分に縮小することとし、從つて河合編輯主任も辭職した。さうして昭和九年十月石川主事を總主事事務取扱に任じ、凡ての事務を總括する組織にした。これは更に內部更新の實を擧げ、經濟的基礎の充實を圖ることの緊要を認めたためであつた。

昭和十年初頭、ワイグル博士を迎へたことも特筆すべき一事である。博士が世界日曜學校協會常議員會長であることは前述したが、エール大學宗教々育科長として又神學部長として、現代斯界の一巨星である。宗教々育に關する幾多の著述は、標準的に汎く用ひられ、苟くも基督教々育を語る者は必ずこれを見なければならないといはれてゐる程である。

今回は世界日曜學校協會の一事業として、支那に於ける基督教會の指導者養成のために出掛ける途次の來朝で、夫人令孃同伴、約十日間滯在された。

協會は豫々歡迎準備を進め、三月八日夜、東京會館で歡迎會を開き、約六十名出席、盛會。十二日夜、富士見町教會に於ける大講演會には聽衆三百。『教師としてのイエス』の題下に、信仰的、教育的、神學的、三者を兼備したやうな、博士の獨壇場ともいふべき講演には、いづれも消えない印象と感動とを與へられた。講演後、小崎道子孃が壇に登つて、博士令孃ルースさんに日本人形を贈呈した時は、滿場割れるやうな拍手が起つた。關西では、大阪ウィルミナ女學校（現大阪女學院）、神戸關西學院で講演、其他約十五回壇上の人となつて、啓發と指導とを與へ、十七日神戸出帆支那へ向つたが、この間、日光、奈良、京都を見物し、東京劇場の觀劇、小林冨次郎邸のお茶の會などがあり、深い興味と滿足とをもつて辭去されたのであつた。

一方青少年への信仰鼓吹は、日曜學校の擴大强化運動に進展し、基督教々育精神の發揚、未開地への進出といふことまで問題になり、協會は內には緊縮を期しながら、外には成長の氣運を辿つて、歩一歩進んで行つたのである。

第四節　教課の檢討と講座の出版

世界日曜學校協會ホブキンス博士の慫慂によつて、日本に於ける日曜學校教課々程協議會が開

かれた（本章第一節參照）結果、取敢へず現行の科別教案の使用方法を有効ならしめるため、諸家に依頼して、幼、初、中、高等の各科に亘り『教案指針』を、六年四月以降、雜誌日曜學校に毎月揭げてきたところ、昭和八年二月に開かれた協會評議員會に於いて、各派に共通した教授要目の編纂を希望する決議があつた。

組合教會の機關誌『宗教々育』と、メソヂスト教會の『教師の友』が、協會の雜誌日曜學校と合併したことは前に述べたが（第四章八節）やはり自派日曜學校だけの統一と、連絡と、指導に任ずる出版物を必要とし、幾何もなく昭和八年四月一日組合教會は『日曜學校教育』を發刊し、中學上級生に對する教案『信仰に生きし人々』を編輯刊行したり、メソヂスト教會日曜學校局では、新たに『基督教々育』を發刊して教案を揭げ、聖公會、バプテスト教會其他もそれ〴〵出版物の紙面を教案に割いた。それで大同小異ともいふべき幾種かのものが現れるに至つたので、せめて題目だけでも共通なものを作つて統一を圖りたいといふのが、その趣意であつた。

これは時宜に叶つたものとして直ちに協會の採用するところとなり、六月、各教派の代表者會を開いて協贊を得『日曜學校教授要目』の編纂に着手した。その原案作製委員は龜德一男、岩村清四郎、松本卓夫、小辻節三、小出正吾、冨永正、田泉保興、篠原金藏の八名で、研究協議を凝

らして、約二箇年の後、幼稚科より青年科に及ぶ十四箇年の課程項目を決定したが、愼重を期して、更に一般教育、文學、宗教々育方面の實際家の檢討を經ることとし、千葉勇五郎、由木康、田頭千代吉、望月敏彦、山北多喜彦、佐藤瑞彦、龜德一男に、教案細目再檢討委員を委囑した。同委員會は度々開會して、十年末その仕事を終つたので、翌十一年一月、最後の各派代表者會を開いた。龜德委員長によれば、本案は『グループ、グレイデッド制により、二箇年單位に學課の配當をなし、形式的には一日曜一課配當の觀あるも、實質的には各課の離合を自由になし得るやうに組立ててある』。委員長の報告の後討議に移り、結局尠くとも本學課の單位たる二年間實地に使用した上で、更に學課そのものの出版を協議しようといふことになり、出席全員の承認を得て散會した。依つて石川總主事事務取扱執筆の『管理法の手引』を附錄として、十一年二月、發行の運びとなつた。

その內容は、嬰兒科『家庭に於ける兩親への宗教々育指導』、幼稚科一二年『父の神と子供の世界』、小學科一級一二年『愛の神と良い子供』、同二級一年『神の御旨を行つた人々』、二年『我等の模範』、同三級一年『神の選民イスラエル』、二年『勝利者イエス』、中學科一級一年『信仰と少年の生活』、二年『神に生くる人々』、同二級一年『救主イエス』、二年『基督教と基督者』、青

年科一年『聖書の理解』、二年『歷史を指導する神』である。

日曜學校通信講義錄は、嘗て明治四十二年に一度出版され（第三章三節參照）當時は相當用ゐられたが、其後絕版となつてゐた。然しその要望は次第に切になり、大會の問題にもなつたので、昭和六年、協會創立二十五周年記念事業の一として、教師の養成並に教養を目的とする『基督教宗教教育講座』の刊行に着手した。內容は協會所定の講習課目標準に據り、全講終了者は題目を選んで論文を草し、審査委員會に提出して、合格の際は教師適任證を附與される規定である。課目と執筆者は『宗教々育原理』田泉保興、『基督教の根本思想』千葉勇五郎、『新約思想概說』村田四郎、『舊約思想概說』澤野良一、『聖書地理概論』河邊滿爽、『日曜學校の歷史』小出正吾、『組織管理』岩村清四郎、『教育心理學』龜德一男、古川原、『宗教藝術に基く宗教々育』『自然科學に基く宗教々育』賀川豐彦、『嬰兒期とその宗教々育』廣瀨興、『學齡前に於ける宗教々育』キユクリツヒ、『兒童期とその宗教々育』佐藤瑞彦、『青年前期とその宗教々育』鈴木榮吉、『青年後期とその宗教々育』重松柾太郎、『成人期とその宗教々育』尾崎和夫、『宗教音樂一般』中田羽後、『農村日曜學校及託兒所』矢部喜好、『夏期聖書學校問題』吉田源治郎等、當代各方面の巨星を網羅した觀があつた。然し豫期のやうな成績を擧げなかつたのは、分冊發行の制度と、編纂者、

出版者が同一ならざることと、或は出版印刷費の騰貴によるものであらうか。

教師用教案と並んで生徒用讀本編纂の聲は隨分古い。斯界の先覺者をもつて任じた田村直臣は、恐らくこれについて最初の組織的な立案家で執筆者であらう。大正十年『宗教教育教科書』と題する十四箇年に亘る生徒用讀本の編纂に手をつけた。それは小學科『虫鳥獸の話』『神のよき規則の話』『子供の友イエスの話』イスラエル人の物語』『イエス・キリストの物語』の五年、中學科『舊約人物論』『基督人物論』『新約人物論』『教界人物論』の四年、大學科『基督教歷史』『基督教々理』『基督教倫理』『基督教心理』『基督教哲學』の五年であつたが、大震災に遇つたり、その他の事情で、完成に到らなかつた。

これより少しく先、山口金作は『舊約聖書教科書創世記』を出した。中學生を標準としたもので、近世の歷史的研究法を應用したものだと述べてゐる。又このやゝ後に、今泉眞幸は『日曜學校教科用聖書讀本』を著した。マルコ傳を中心とし、マタイ傳中の重要な教訓と、ルカ傳中の有名な說話とを加へ、高等科に用ふべく、一年分として四十四課を配してある。本文は聖書そのままを記し、一課を事件によつて幾つかに分かち、冒頭に一々內容を摑み得るやうな標題が記され、特殊の意味を有する句には簡單な註がついてゐる。著者は、教授は、素讀を主とし、意味は

一應の理解に止めることを述べ、素讀を主とした往時の漢學の教授法が、人格形成に力があつたことを說いてゐる。然しこの二著は寧ろ試案といふやうなもので、その後續刊されなかつた。

續刊してゐるのは日曜世界社發行の『日曜學校讀本』で、同社發行の級別教案に併用されるものである。又日本基督教會日曜學校局から『日曜學校生徒の友』が發行されてゐる。菊倍判四ページ。同局發兌『日曜學校の友』誌掲載の學課と連絡があるもので、月一回出してゐる。

然し更に進んで、教師用教案のやうに生徒に對しても全課程に亘つて組織的なものが作られねばならぬ。これは今後の我日曜學校界に課された重要な仕事の一つであらう。

第十二回世界日曜學校大會は、昭和十二年七月六日から十二日まで、ノールウエー國オスロー市で開かれた。日本側からは、協會理事たる靈南坂教會牧師小崎道雄を始め、本所產業青年會主事木立義道、宣教師ショー、サンダース、アイザックの五名を代員として派遣することになつたが、特筆すべきは、世界日曜學校協會からの希望により、賀川豐彥が特別講師として招聘されたことである。

會場は市最大の公會堂カルメヤー・ガーデン・ホールで、四十九箇國から二千七百の代員が參集した。本大會の一大特色は、畏くも國王ハスコン陛下が直接御關係遊ばされたことで、大會の

開會禮拜と、最後の禮拜には、親しく臨御あらせられ、會期中、代員數十名を夏の離宮に招待され、茶菓を下され、直接御言葉と握手とを賜はつた。

賀川講師は非常な人氣を呼び『大會の花形』の觀があつた。『日曜學校と傳道』と題するその講演などは、拍手喝采の嵐に包まれてしまつた。いかに人々を動かしたかは、次回のアフリカに於ける大會にも、又賀川講師招聘の交渉があつたのに觀ても察せられる。

大會の異彩の一つは、十五箇國から集まつた百人に近い青少年が、市郊外の支那ミッション・ハウスに宿泊して、青少年特有の問題を討議し、協議し、決議したことであつた。これは多くの教育的收獲があつたが、指導者の講演中、賀川講師のは特に深い印象を與へたやうであつた。かくて小崎代員はその使命を果して、九月十三日、無事歸朝したのである。

思へば二十餘年前、初めて世界大會の末席に顏を出した國が、衆望を荷うてわざ〳〵招聘される特別講師を出すに至つた。是亦我國宗教界の進歩を物語る一つの徵證ではあるまいか。

第五節　理論的研究の發達とその結晶

日本人の手に成つた日曜學校教育に關する理論的組織的研究のまとまつた發表は、明治四十

年、田村直臣が著はした『二十世紀の日曜學校』を以つて、恐らく嚆矢とするだらうといふことは前に述べたが（第三章八節參照）引きつづき彼は『宗教教育の原理及實際』『子供の權利』などを出した。

フレーベルの永久的名著『人の教育』の全譯が日本に紹介されたのは、明治四十二年で、神戸の頌榮保姆傳習所長ハウ女史及原田助博士の心血を濺いだ飜譯によるが、これが我幼兒教育界に多大の寄與をしたことはいふまでもなく、宗教々育の方面に及ぼした影響も少なからざるものがあつたらう。東北學院のフアウスト教授が『日曜學校指針』を著したのは、大正二年で、實際的な問題を包括的に取扱つたことと、日本に長く在つて事情に通じてゐたこととは、本書を有用なものにした。

注目すべき著書は、伊藤堅逸の手に成る『兒童宗教教育の基礎』と『宗教心理學』である。大正九、十年の交、洛陽堂から出版されたが、いづれも菊判五六百ページの大冊で、立場は批判的、構成は組織的、態度は學究的で、恐らく基督教界に於ける邦人によるこの方面の述作で、かく系統を逐ひ、詳細を極めたのは未だ嘗てなかつたらう。著者は聖公會の牧職を奉ずる人、その刻苦勵精と周緻忠實は想ふに餘りある。

日曜世界社が大正九年以降四五年に亘つて續刊した宗教々育研究叢書は、日曜學校教師の參考に資する啓蒙的出版で、斯界を益したことは忘れ難い。著者と書名は、賀川豐彦『イエス傳の教へ方』、赤星仙太『日曜學校論集』、大屋左一『聖地の風俗と習慣』、日高善一『耶蘇傳十講』、海老澤亮『日曜學校管理法』、三谷種吉『聖書研究の手引』、津川主一『日曜學校音樂』、谷津善次郎『日曜學校に應用したる兒童心理』、錦織貞夫『宗教々育の新しい研究』、吉田源治郎『心の成長と宗教々育の研究』の十篇であつた。猶、十三年に同社から出た『聖書辭典』は、四六版約千ページ、簡潔で、便利で、正に日曜學校教師向といふべく、歡び迎へられた。

賀川豐彦は驚くべき精力と努力とをもつて、社會運動に盡瘁し、傳道事業に奔走し、神學を論じ、小說を書き、教育を說き、あらゆる方面に活動してゐるが、日曜學校の理論的方面にも指を染め、大正四年興文協會より「日曜學校教授法」を同十五年、文化生活研究會より『魂の彫刻・宗教教育の實際』を、昭和四年、春秋社より『宗教教育の本質』を上梓し、昭和五年、家庭科學大系の一冊として警醒社から『宗教教育入門』を出版し、いづれも汎く讀まれたが、就中『魂の彫刻』は、日曜學校教育に對し一つの立場と態度とを示唆したものとして注目される。海老澤亮も健筆家で、昭和七年に『宗教教育の心理的基礎』を、同八年に『宗教教育の歷史的開展』を、文書堂

から出したが、後者は世界の宗教教育史で、我國に於て恐らくこの方面の最初のものであらう。

昭和六年、同じく濫觴の譽れを擔ふべき本が出た。版元は文化書房、著者は蘆谷重常、（第三章八節參照）書名は『宗教童話の研究』で、この方面は前人未到ともいふべき世界である。第一篇宗教童話總論では、宗教童話の歷史、童話のもつ宗教的要素、宗教教育に於けるお話の効用、日曜學校と童話、其他を說き、第二篇は佛教童話の研究に就いて語り、第三篇基督教童話では、舊約聖書の童話文學、ユダヤ及其附近の口碑童話、耶蘇傳、基督教的傳說文學、歐洲の口碑に現れたる基督教、創作童話と基督教に就いて述べてゐるが、流石に斯界一方の權威であるだけ、他の企及し難い研究が掲げられてゐる。

次で七年から八年にかけて、同氏の主宰する日本童話協會から『綜合童話大講座』が刊行され、一部分は『宗教童話』に充てられたが、その中の『基督教童話總論』は蘆谷重常が執筆し、同各論中の『舊約聖書篇』は同氏が『新約聖書篇』は上澤謙二が『文藝篇』は高瀨嘉男が起稿した。いづれも就いて見るべきものがある。

昭和七年、メソヂスト教會日曜學校局では『日本メソヂスト宗教教育叢書』の刊行を企て、松下績雄著『新約聖書研究』原田駿雄著『イエス・キリスト』龜德一男著『宗教教育の原理』石川

義一・西村定清共著『手工と遊戯の實際』等を出したが、就中『宗教教育の原理』は、著者多年の蘊蓄のエッセンスともいふべく、殆どあらゆる關係問題を網羅しつつ而も簡潔に叙述してあつて、斯界に重要な一文献を加へたものである。

日本基督教會日曜學校局に於ても、夙く日曜學校パンフレットの出版に着手したが、そのうち、馬場久成著『日曜學校禮拜の原理と實際』は、この方面の研究が漸く注目を惹いて來た際、指導的役割を勤め、日本神學校教授桑田秀延著『神學と宗教教育』は、日曜學校教師の多くが、神學と緣遠い平信徒なので、自然かういふ立場からの考察が疎かにされてゐたのに對し、警醒と指示とを提供し、高崎能樹著『日曜學校教授法』は、その實際的實驗的な點に於て多くの便益を與へた。

猶、馬場氏は一粒社から『日曜學校の諸問題』を、高崎氏は叢文閣から兒童教育叢書中の一卷として『兒童と宗教教育』を上梓したが、前者は專ら實際問題を取扱つてその解決を示し、後者は組織的叙述によつて、問題の全貌を明かにした。共に好著である。

昭和十年から十一年にかけて、特色ある理論的體系ともいふべき三部作が公けにされた。著者は長岡女子師範學校附屬小學校主事溝上茂夫、書名は『福音主義的教育觀』『宗教々育の根本精

神』『聖書教育學』、版元は新生堂である。その第一は啻に宗教教育ばかりでなく、眞の教育はイエスの福音主義の上に樹立さるべきことを闡明したもの、第二は宗教教育が單なる教育的方法でなく、あらゆる教育の基礎根本であることを力說したもの、第三は聖書教育學が一般教育學の完成であり、人間教育學そのものであることを說示したもので、その立場の明確と、立論の透徹と、態度の熱烈と、結論の信仰的なこととは、讀む者の目を開き、心を打つて、啓發と感動とを注ぎ込まねばやまない慨があつた。

飜つて飜譯の方面を觀ると、既に明治三十六年に、エス・エス・ハミル原著『日曜學校教師』が出版され、同四十三年に、ビー・デュボイス原著『教授の秘訣』が刊行された。前者は譯者不明、後者は大宮季貞、鈴木浩二の共譯であつて、共にこの方面の參考書が少なかつた當時、研究的な日曜學校教師の好伴侶として迎へられた。

更に降つて、昭和六年に、米國に於ける著名の童話家で童話理論家たるエグレストン女史の "The Use of the Story in Religious Education" が、宮崎小八郎氏の譯で『宗教教育に於けるお話の活用』と題して日曜世界社から、同七年には、當代宗教々育界の世界的權威でコロンビヤ大學及ユニオン神學校に教鞭を執つたコー博士の "A Social Theory of Religious Education"

が近藤義一郎の譯で『社會的宗教教育原論』と銘打つて、保全社から、同十二年ハートフォード神學校宗教教育科主任で米國斯界の重鎭たるマイヤース博士の "Teaching Religion Creatively" が、海老澤亮の譯で『創造的宗教教育』といふ名で、帝國教育會出版部から、それ〴〵刊行された。宗教教育に關する海外の名著は數多くあるので、この方面の仕事はもつと活潑に行はれねばならぬと思ふ。

この間基督教以外の畑からも、少なからぬ宗教教育に關する著述が出たやうであるが、ここには代表的なものとして、東京帝國大學宗教學教授姉崎正治の『宗教と教育』京都帝國大學教育學教授谷本富の『宗教教育原論』東洋大學教授關寛之の『兒童學に基ける宗教教育及日曜學校』の三著を數へたい。右三著はいづれもこの方面の研究を使命とする學界の巨匠の著で、從つてその著述が權威あるものたることはいふまでもない。

かくてこの節に於ては、宗教教育及日曜學校に直接關係ある當代の理論的方面の主なる著譯書を大觀したが、これこそ我國に於ける斯界の精神的發達の光を、いみじくも反映したものといふことが出來よう。

第六節　基督教兒童文學と日曜學校音樂

植村正久牧師主宰の福音新報が、新たに少年少女欄を設けて、兒童向の宗教讀物を連載しはじめたのは大正四年頃であるが、この一つの事實は、兒童の宗教的讀物に對する信者一般の關心が漸くにして昂まつてきたことを示すものであり、從つて基督教兒童文學といふものが發生し得る社會的背景が出來つつあることを想はせるものであつた。

當時その欄を擔當したのは、笙の音を號とする石本音彥であつた。帝大英文科の出身で、前途を囑目されたが、勉學のため渡米したままその地に駐まり、後實業界に轉じてしまつた。次で高崎能樹が花童の號をもつて編輯に任じ、更に野邊地天馬に代り、その間數年を經過した。

この期に至つて、我國最初の基督教的な創作長篇童話が現れた。沖野岩三郎、山村暮鳥がそれで、前者には『山六ちいさん』『黑船物語』があり、後者には『鐵の靴』がある。

沖野氏は明治學院神學部の出身で、朝日新聞の懸賞小說に、應募作品『宿命』が當選したことが動機となつて文藝界に轉じた。多くの小說を執筆すると同時に多くの童話をものしたが、大衆的な興味を盛りつつ性格的描寫に長けてゐる點に特色があり、次第に圓熟の境に入るに從ひ、枯

淡な筆づかひのうちに無限の趣を藏するやうになつた。主な作品は金の星社發行の學年別童話讀本六冊に集められてゐる。山村氏は聖公會の牧師だつたが健康のために職を退き、鄉里茨城縣大洗海岸に引退し、病を養ひつつ詩作に親しみ、一般詩壇から特異の存在として認められたが、傍ら童話にも筆を染めた。『鐵の靴』は大正十二年、內外出版株式會社の發兌で、菊版四百五十ページ。この病詩人が基督教的信仰に基づく一篇の大作を殘さうとした燃えるやうな野心の程が窺はれる。その他日曜世界社から『葦舟の兒』あをぞら社から『聖フランシス』(第四章八節參照)等を出したが、いづれも文藻に秀で詩情に薰るところ獨自の壇場である。痛ましくも不遇のうちに倒れて、今や終焉の地たる砂濱に、一基の石碑が松籟に守られつつ、大平洋の怒濤に面して寂しく建つてゐるのみである。

これよりやや先き、大正八年に警醒社から『イスラエルモノガタリ』といふ舊約聖書を題材とした單行本が世に出た。取扱方が自由で、筆づかひが暢達で、大膽とさへ思はれる節があり、從來の聖書物語に比し、一段の新鮮味を帶びて、讀む者の目を瞠らせたが、それが基督教婦人矯風會の雜誌編輯に從事してゐる妙齡の女性大橋房子と分つた時は、瞠つた目は更に大きくなつた。房子女史は文藝家佐々木茂索に嫁すると共に、教界と離れてしまつたが、この人を基督教兒童文

學の世界から失つたことはいかにも惜しい。

基督教の畑から出た女性の兒童文學者としては、村岡花子に指を屈せねばならぬ。東洋英和女學校の出で、創作に、飜譯に、天分を發揮し『星の子供』『赤い薔薇』『お山の雪』などの童話集を出し、ポーターの『姉は闘ふ』『喜びの本』マークトウエンの『王子と乞食』其他の飜譯を稿した。嘗ては婦人矯風會や教文館の編輯部にも關係したが、後、東京中央放送局囑託となつて『子供の新聞』の放送に當り、『村岡のをばさん』の名洽く、更に多くの童話集を、金の星社、新潮社其他から上梓したが、基督教的色彩のより濃厚なのは前述の三冊である。

横山美智子は地方の女學校出身で、早くより少女小說に筆を執つたが、基督教的情調の漂ふものがあるのは、その世界から出たために外ならぬ。朝日新聞の懸賞小說に應募して『綠の地平線』が當選し、文名を馳せたが、數種の述作のうち、講談社發行の少女小說『級の光り』教文館發行の『よいお友達』が優れてゐる。

三面六臂の活動をしてゐる賀川豐彥は(五節參照)亦兒童文學にもペンを揮ひ、既に夙く『友情』『預言者エレミヤ』等を警醒社から出し、少年少女物語『柘榴の半片』童話集『馬の天國』『爪先の落書』等を日曜世界社から『コドモキリスト一代記』を教文館から出版してゐる。

昭和二年から三年にかけて、劃期的ともいふべき出版が發表された。『聖書物語文庫』二十四卷の豫約募集である。これは上澤謙二が發案し、蘆谷蘆村と協力して編したもので、題目と執筆者は『世界の始まりの話』（エデンより大洪水まで）蘆谷蘆村、『國の父となつた人の話』（アブラハム）同氏、『仲直りした兄弟の話』（ヤコブ、エサウ）高崎能樹、『奴隷から大臣になつた人の話』（ヨセフ）岩村安子、『六十萬人を救ひ出した人の話』（モーセ）三浦關造、『國を建てた勇士達の話』（士師）上下、蘆谷蘆村、『神様に呼ばれた子供の話』（サムエル）西阪保治、『牧童から大王になつた人の話』（ダビデ）沖野岩三郎、『賢こい王様の話』（ソロモン）横山美智子、『天から火を降らせた人の話』（エリヤ・エリシヤ）上澤謙二、『神様の言葉を傳へた人達の話』（上、大預言者。下、小預言者）野邊地天馬、『強い美しい女王の話、優しい孝行なお嫁の話』（エステル、ルツ）村岡花子、『苦んで苦み拔いた人の話』（ヨブ）賀川豐彦、『獅子を降參させた人の話』（ダニエル）上澤謙二、『異鄕に囚はれた民の話』（エズラ、ネヘミヤ）日高善一、『舊約外典の話』芦谷蘆村、『國を再興した英雄の話』（マカビス）鑓田研一、『イエス・キリストの話』（上下）上澤謙二、『キリストのお弟子達の話』（使徒）齊藤敏夫、『大傳道者の話』（パウロ）上澤謙二、『新約外典の話』吉田源治郎である。これは當時の第一線に立つ基督教兒童文學者を總動員したものといふべく、又ヨブ

や、小預言者や、マカビスや、舊約外典や、新約外典などは、嘗て兒童讀物の世界に持ち來たされたことなく、從來現れた類書のうちで、最も揃つた最も詳しいものといふべきであらう。これは昭陽堂書店から毎月二冊づつ、一箇年に亙つて世に送り出されたが、數年後基督教出版社で引受けることになり、題も單に人名だけとし、新裝して再び江湖に見えた。

上澤謙二は日本銀行員だつたが、兒童の世界に轉身すべく辭職して渡米し、州立ワシントン大學に學び、歸朝して協會主事に就任したが（第四章八、九節參照）日本銀行在行中、基督教的精神に基づく『上澤謙二物語集』十冊を洛陽堂から刊行し、後改版して新生堂から出版した。協會を辭して後、聖書を逐字的に兒童語に譯出することに着手して、滿六年を費した昭和六年末、新約全書を完成し『子供聖書うれしいお知らせ』と題して、四福音書と、使徒行傳以下の二卷に分かち實業之日本社から出版し、版を重ねた。從來『子供聖書』と銘打たれたのもあつたが、それは聖書記事を物語化したもので、聖書本文の逐字譯はこれをもつて嚆矢とするといへよう。猶、同氏には『幼年クリスマス童話集』『イーズスター童話對話物語兒童說教選集』等の著があり、新生堂から出てゐる。

日本基督堺中央教會牧師齋藤敏夫も、特色ある兒童讀物を提供することをもつて知られてゐ

る。『イエスさまと子供』『イエスさまとお弟子』『小石の大手柄』『百合少年』等は日曜世界社より『大使徒パウロの話』『こども創世記』はともしび社より出版された。いづれも小冊子である。が、結構、叙述、明快端的で、直ちに兒童の胸臆に突き入る迫力を藏して、その裏に熱烈な傳道心が流れてゐることが看取される。

日本基督教會日曜學校局發行の日曜學校の友誌の編輯は、初代の赤星仙太から北村勳に移つた。同氏は明治學院神學部を卒へたが、在校中より宗教教育に注意し、その研究見るべきものあり、前途多望な少壯教役者であつたが、惜しいことに早世した。それに代つたのが明治學院教授小出正吾である。小出氏は昭和二年に警醒社から、童話集『ろばの子』を出したのを手初めに、十年に『りんご』を、十五年に童話春秋社から『新選童話五年生』を世に送つたが、滋味あり含蓄ある構想と筆致に基督教的色彩をにじませ、獨自の天地を築いてゐる。別に青少年を對象とした舊新約に亙る聖書物語『ヨルダンの流』『エルサレムの丘』『イエス・キリスト傳』を建設社から出版し、又傳記ものにも指を染めて『聖フランシス物語』を厚生閣から『ルッター傳』を隣友から上梓した。

高瀨嘉男の處女出版『少年基督傳』も、昭和二年、新生堂から出た。氏は引きつづき『ようね

ん聖書物語』『兒童宗教讀本』『聖者童話選集』『二つの太陽』『小包で來た春』等を、新生堂から『鶏と赤ん坊』を童話春秋社から刊行したが、いづれも忠實な眞面目な努力の所産である。

かく作家は漸くにして輩出し、基督教兒童文學は徐々に興隆の氣運に向つて來たと見られるが、その證徴は教界外にもハッキリと認められた。それは基督教信者でない作家によつて、一般の出版書肆から基督教關係の兒童讀物が剞劂に附せられるやうになつたことである。例へば金の星社編輯部編同社發行『新約物語』、和田傳著文教書院發行『新約バイブル物語』、富山房模範家庭文庫中に濱田廣介著『キリスト物語』、中村星湖著『舊約物語』、又藤田淳著文化書房發行『バイブル物語』等がそれであるが、特に『キリスト物語』は、措字の巧、文脈の妙に於いて、嶄然たる特色を放つてゐる。

濱田氏の序文中に、參考書としてハルバットの聖書物語が擧げられてゐるが、これは二種の飜譯が出た。一は磯部泰治ので教文館から、一は三浦關造ので誠文堂からである。飜譯の方面を見ると、夥しい數量と種類に上つてゐるが、著名なものを擧げればポーター著弘中つち子譯教文館發行『ルイズ』『パレアナ』、ヴアン・ダイク著伊藤宗輔譯厚生閣發行『窪より』『イエスを尋ねて』、エグレストン著西阪保治濱田勝次郎共譯日曜世界社發行『おねんねするまで』、デイケンス遺

著岩橋武夫譯三省堂發行『主イエス様の御生涯』等が數へられよう。ヴアン・ルーンの名著『聖書物語』の飜譯は二種出たが、一つは前田晁によつて東京堂から、他は神近市子によつて改造社から。この二人とも教界外の人であることは一奇といへよう。

昭和七年、基督教兒童文學の研究と創作を標榜した月刊雜誌『光の子』が新生堂から發行された。上澤謙二が同好同志の人々と共に組織した基督教童話協會の機關誌である。雜誌の外に、會員の作品を集輯した『基督教兒童文學選集』を出し、更に會員の個人作品集として、原利治著『影と聲』、杉浦靜江著『花が咲くには』、津吹多鶴子著創作聖書童話集『父の愛母の愛』を、いづれも新生堂から刊行。『影と聲』は文部省認定に『父の愛母の愛』は日本圖書館協會の推薦になつた。同じ年に、海老澤宣道、平澤克己等によつて月刊誌『基督教童話』が發行され、同じく基督教兒童文學の研究と創作のために精進したが、數年にして廢刊した。この兩誌とも目覺ましい運動を招來するに至らなかつたが、而も殆ど時を同じうして、嘗てなかつた基督教兒童文學を對象とする雜誌が生まれ、多少の活動と寄與をしたことは、斯界の興隆を物語る徵證として注目さるべきであらう。猶、海老澤氏は文書堂から上梓された宗教童話集叢書に『ひいらぎの實』を執筆したが、同叢書には、濱田勝次郎『葦笛』『祈る子供達』、井上光二『本當の幸福』、間山秀麿『朝

の鐘』、高橋マリヤ『生命の樹の葉』等がある。中でも井上氏の『本當の幸福』は、豐かな藝術味を有する點に特色を有つてゐた。平澤氏には眞面目な努力の所產たる『アシカの曲藝師』『紅い舟』『笛吹く春』『夕燒の町』の著があり、新生堂の發行である。

飜つて宗教兒童劇の方面を觀れば、クリスマスの守り方が、大人仕込の語誦や、朗讀や、對話を、寄木細工式に組立てることから脫却して、漸次系統的に、教育的に、更に禮拜的にまで進んで來た氣運に併行して發達したともいはれよう。餘興的プログラムの排斥と共に、そこに行はれる對話や劇も、宗教的で且文學的であるべきことが叫ばれ、これに關する著書が現れるに至つた。その最も早いものは、常盤社のクリスマス演藝集（第三章八節參照）日曜世界社の『日曜學校對話集』『日曜學校實演對話集』各六冊（同上）であらう。野邊地天馬著日英社刊『聖書の人々』石黑つぎ子著聖公會出版社刊『基督教兒童劇集』『續基督教兒童劇集』、教文館編『新しい宗教劇』、シエレスキー、スミス共著教文館刊『クリスマス聖劇集』プランボー編同上『青年聖劇集』並『福音戲曲集』、立教大學編聖公會出版社刊『クリスマス兒童劇集』等は主なるものとして擧げられよう。

近來幼兒教育が一般に認められると共に、繪本の出版相次ぐに至つたが、基督教界ではこの方

面は猶微々たるもので、日曜世界社から西阪保治編『聖書繪話讀本』として『ポッポノイエスサマ』外三冊、『イエスさま御一代の繪本』として『オネンネイエスさま』外二冊、教文館から細貝貞子編『カタカナ聖書繪話叢書』として『アカチヤンモーセ』外五冊、基督教出版社から上澤謙二著『カタカナエバナシイエスサマ』が擧げられるくらゐである。

日曜學校禮拜が重んぜられるに連れて、兒童說教が重視され、この方面の資料も漸次に提供されるやうになつたが、その魁をなしたものは昭和七年吉田源治郎が、日曜世界社から出した『兒童說教』である。それまでは或はお伽說教といはれ、或は教へばなしといはれたりしたのに、この名を與へたのは吉田氏だとのことである。次で北村勳著日曜世界社刊『日曜學校教話資料』上澤謙二著あをぞら社刊『子供を眞中にして』久連松弘著厚生閣刊『天國の方へ』谷山小文譯新生堂刊『少年少女への說教集』森溪川譯文書堂刊『神樣と私』外四冊、上澤謙二著基督教出版社刊『一年間兒童說教』平澤克己著同上『五分間兒童說教』川村信譯編同上『日曜學校一年中の教話』關根文之助著日曜世界社刊『兒童說教一年』上澤謙二著同上『題目別兒童說教百集』等が順次世に問はれた。

以上、基督教兒童文學の世界を總覽する時、時を經ると共に量に於ても加はり、質に於ても向

賀川豐彦

赤星仙太

「日曜學校讃美歌委員」前列右より津川主一、岩村清四郎、龜德一男、鳥居忠五郎、草川宣雄

後列右より石川義一、中田羽後、由木康、安部正義、內田桑一

「日曜學校の友」の初期編輯者 北村勳

「小兵士」の主幹 伊藤馨

上しつゝあることは認められるが、未だ飜譯飜案の時代を脱しきつたとはいへぬ。『日本が生んだ日本の基督教兒童文學』が叫ばれるやうになつて年久しくないが、今や内外の狀勢に鑑みて、さういふ時代に際會したのではあるまいか。

轉じて日曜學校音樂の世界に眼を放たう。

明治の初期より中期にかけて出版された讃美歌を見ると何れにも、子供に關するものが二三加へられてゐるが、その中で日曜學校で最も多く用ゐられたものは、『主われを愛す』である。これは今日も尙、何れの日曜學校でも最も多く歌はれてゐるものであらう。

この時代は全て飜譯時代で、『主われを愛す』の如きもその一つであり、最初に譯された詞は今日から見ると隨分變なものである。

明治二十五年に『幻稚園唱歌』が神戸頌榮幻稚園から發行された。これは日曜學校專用のものでないが、多數のこども聖歌が含まれてゐる點に於いて、先づ我國日曜學校讃美歌の草びらきともいひ得るものであらう。編者は同園の創立者アニ・エルー・ハウ女史で、歌詞の飜案に從つた人々の中には松山高吉、大和田建樹、塚本ふじ子、大賀壽吉の諸氏がある。その飜譯歌詞の中にはやはり奇妙なものが多いやうである。例へば六十一番

祖父なるふた大指
この八人の子を愛す
ばゝもこれらもれいをせり

の如きで、現代のフレーベル保育歌曲集の

コレハ　オバアサマ　オヂイサマヨ
コレハ　オトウサマ　オカアサマヨ
コレハ　チヒサイ　ウチノ　バウヤデス
タノシイ　オウチノ　ヒトタチヲ
ミンナ　ミテクダサイ

と比較すると面白い。

同じくハウ女史撰の『クリスマス唱歌』が明治二十七年に出てゐる。飜譯及び作歌は大和田建樹で、前の歌曲集とは比較にならないほど秀れてゐるが、今日の兒童文學の立場からみると、凡ては文語體で、いさゝか子供用として適せざる憾みがある。

『ゆきびら』は、今日の若い日曜學校教師には餘り知られてゐないが、これは兒童歌曲集中の傑

作ともいふべきもので、初期に於ける、その功績は、まことに計り知られぬものがある。これが成功の主因は何といつても大和田建樹が作詞の任に當つたところにある。大和田氏は當時の作歌界の第一人者であつたのである。後年讃美歌第二編が現れてからも、『ゆきびら』は何れの日曜學校に於いても盛んに用ひられ、今日もなほ、これを探し求めてゐる人たちがあるのも故ないことでない。曲數九十、明治三十四年横濱常盤社の發行である。

同じ常盤社發行の『常盤唱歌演藝集』は日曜學校祝祭日用のもので上下二冊、これも日曜學校にはなくてならないものであつた。下編は明治四十三年に出てゐる。その中の藤本傳吉の作歌『露』は當時の叙情主義を反映し、多くの子女に愛唱された。

天ついぶきの　おもりゆく
乙女葛の　ふれしより
すゑにむすぶや白玉の
底まできよぎ　すがたして
神よりいでゝ　かみにゆく
しばしは露の　やどりかな

現在の『共通讃美歌』は明治三十九年に着手され試作時代ともいひうる大正の四年十月に刊行された。その間實に十年、譯詞には別所梅之助、三輪源造の兩氏が當り、音樂の方はマクネア、オルチンの兩氏が受持つた。そして米國のマガレット・クート・ブラオン女史、グレース・ウイルバア・コナント女史の作曲を多數用ゐた。收むるところ二五九曲日本人の作曲は絶無である。歌詞の方は、委員會制のため、一體に無難であるが、序文にもある通り、三十六年に發行された最初の共通讃美歌の拾補の意味があつたので、必しも、兒童向きの歌曲が多かつたとは思はれない。こゝに前記の「ゆきびら」や、一層大衆的な日曜世界社の「コドモの歌」などが喰ひ込む餘地があつたわけである。當時別所氏は青山學院に、三輪氏は松山女學校に教鞭をとつて居た。またマクネアはプレスビテリアン派の宣教師で、明治學院に教鞭をとりオルチンはアメリカン・ボード外國宣教協會より我が國へ派遣された宣教師として大阪に居住し、專心教化事業に從事してゐた。『わがやまとのくにをまり』の作曲は氏の手になつたものである。

同じ年の十二月に、大阪の西阪保治は『コドモの歌』を出した。定價は僅か十二錢で、三十一曲を收め、略譜だけで書いてあるが、この中の「まことの神樣たゞひとり」(作歌作曲西阪氏)などは、津々浦々まで行き渡つて歌はれたものである。作曲者の中には、このほか久米津矢子、小串

信太郎、伴茂樹の諸氏と共に、西阪氏自身の作曲も見える。由木康がはじめて聖歌を世に發表したのも此の歌集である。久米津矢子は德島女子師範を出て日曜世界社編輯部に働き、小串信太郎は德島女子師範の音樂教師であつた。

大正六年十一月に『新選クリスマス唱歌演藝集』が出た。ジーン・ノルドフ及び弘中つち子兩女史の合譯であるが、その歌詞は文學的でなく、施律と合はないために世に行はれなかつた。樂譜も本譜に相違ないが、素人筆蹟を、そのまゝに製版したもので鮮明を缺いでゐた。基督教興文協會は、こののちにも此の種のものを出したが何れも片言の日本語で、音樂とは常に分裂してゐた。

明治四十一年の聖公會總會で小兒讃美歌委員が選任されそれが大正六年まで、これ又足掛十年を經て完成したのが『こどもせいか集』である。委員の中にヒュ・ゼオス、今井壽道、辻井享、松山高吉、松田承久の諸氏があり、エ・イ・ウエヴ氏がこの譜の面倒をみた。百曲を收めてゐるがこれが何の程度に世に行はれたかは詳かでない。或は版を重ねずして止んだのかも知れない。兎も角、音樂的にも到るところに反則があるのは誠に惜むべきことである。

『新作日曜學校唱歌集』は特に新作と銘打つてある如く、作歌・作曲ともに日本人の新作を收錄

したもので、前後三卷出た。これは大阪の西阪氏が出版し、由木康氏が全部作歌したもの、大中寅二や津川主一が、賣文家ならぬ、賣樂家たる第一歩を踏み出す機緣たらしめたものである。最後の第三卷は、當時上京して間もない由木康が大正十一年、すなはち大震災の前年の秋、その序文の筆を執つてゐる。由木康作詞、津川主一作曲の『丘の上の教會堂』、『海女のこども』、『魚よ魚よ』『曇り日』、「雪よ降れ降れ』などは此處に出たのもの。各卷十曲づゝ、都合三十曲を收めてゐる。

前の第三卷と殆んど同時に出來たもので『聖書唱歌』がある。これは由木康と津川主一の完全な共著で大阪の西阪氏が出版した。九曲で今日考へると音樂的に駄作の類に入るが、『ノアの方舟』や『低いザアカイ』などは、一時盛んに歌はれた。

日曜學校讃美歌の編纂完成（第四章八節參照）は、何といつても斯界に於ける劃期的な出來事であつた。その委員中に數へられる草川宣雄、由木康、津川主一、中田羽後、大中寅二、木岡英三郎、鳥居忠五郎等は、我日曜學校音樂の進歩については忘れることの出來ない人々である。

由木康と津川主一は同時代の關西學院の出身で、夙くより共に音樂の方面に志し、前に述べたやうに大正の初めの頃、日曜世界社から、前者の作詞後者の作曲で『聖書唱歌』及『日曜學校唱

歌集』三冊を出したが、由木氏は卒業後二葉獨立教會を牧する傍、益々この方面に歩武を進め、『聖歌』を新生堂より『をさなごのうた』を日獨書院より『イエス傳詩畫集』と幾種かのクリスマス・カンタータを日曜世界社より上梓する外、日獨書院より『讃美歌小史』を出すなど、常に指導的地位を占めてゐる。津川主一は美普教會の教職にあつたが、教會音樂に專心すべき使命を感じ、この世界に一身を投じた。東京オラトリオ協會を率ゐ、月刊『教會音樂』を編輯し、あをぞら社より聖歌集『銀の星』日曜世界社より『日曜學校幼稚園聖歌集』『日曜學校音樂』、アルスより草川氏と合著『學校教會オルガン名曲集』、教會音樂社より『フレーベル愛兒保育歌曲集』、日獨書院より由木氏の作詞に作曲した『をさなごのうた』等を出し、又教文館より『讃美歌作者の面影』、白水社より『樂聖バッハ』を刊行し、其他雜誌執筆に、ラヂオ放送に、異常な活躍と精進とを示してゐる。中田羽後は聖書學院の出身で、中田聖樂研究所を開き、東京聖樂協會合唱團（舊稱）ヴォランテヤ・コワイヤー）を率ゐて奮闘しつつあり。その著に『クリスマス聖歌集』其他があり、基督教出版社から上梓された。木岡英三郎は明治學院を出て後、久しく歐米に於いて音樂を學び、特にパイプオーガンに造詣深く、東京女子大學其他に教鞭を執り、鳥居忠五郎は東京音樂學校を卒へて、青山學院を教へ、大中寅二は長く靈南坂教會のオーガニストの位置を占めて

ゐるが、孰れも一般教會及日曜學校の音樂指導のために、時と力とをささげてゐる。島居氏には日本基督日曜學校局發行の『日曜學校讃美歌の教へ方』の著があり、大中氏には『オルガン聖曲集』の著及數多くの子供向の作曲がある。草川宣雄は多年初等教育界の音樂の實際に從事し、又富士見町教會のオーガニストを勤め、その演奏は定評あり、斯界の先進として認められてゐる。玄文社刊行の『唱歌法』の著は、權威的なものとして知られてゐる。

さて日曜學校用の讃美歌といはず、基督教界に於ける兒童向の歌曲は昭和に入つて漸く飜譯時代を脱し創作時代に移つて來たやうに思へる。その最初に出されたのが前掲の津川主一編の『日曜學校幼稚園聖歌集』で、收むるところ五十曲、中二六曲は津川主一の作品である。『わたくしたちは』、『魚よ魚よ』、『夕の星と曉の星』、『君見すや彼の星』などはひろく唱はれ、版は、少くとも五、六回重ねたと思ふ。初版は昭和二年九月となつてゐる。

更に前掲の『日曜學校讃美歌』委員に堀内、島居、阿部、内田の四氏が加はり、昭和二年二月より、翌三年八月まで一般より募集した數編を加へて新曲四十餘編を得、これに讃美歌より十四を轉載し、『改訂增補日曜學校讃美歌』が出版された。然し依然創作曲は振はない。

『こども聖歌集(1)「なぞの國」』は西阪保治の作歌、今川節の作曲、十二曲を收めてある。作曲

者は福井縣丸岡の銀行員で作曲を宮原禎次氏等に學び、コンクールに『四季』なる管絃樂曲が入選した程の才能を有したが、不幸昭和九年若くして此の世を去つた。その前年の十月に出したのが卽ちこの歌集である。

猶、日曜學校音樂の世界には誌すべき多くのことがある。然し紙數の都合もあり、この邊で次代の秀れたる若き子供聖歌の作詞作曲家の出現を待望しつゝこの節を終る。

第七節　完き自給獨立へ

昭和九年以後、協會は暫く内容の整備充實期に入つたが、その結果は次第に現れ、昭和十三年末をもつて、會館建築費用は全部償却濟となつた。これがためには協會理事者も、職員も、全國部會も、並々ならぬ苦心と努力をつづけたが、今やそれが酬いられて、他國の日曜學校協會には殆ど見られない、自己の土地建物を有つ『巖』なる基礎の上に立つことができたのである。

然もこのことに關し記憶すべきは　スペリー博士の遺族が、博士生前の約束を固く守り、申込金全額に利子まで添へて拂ひ込まれたことである。これ實に基督教的信義の證(あかし)であり、國際關係の舞臺に於ける一大美事といはねばならぬ。協會はこれに對し、感謝狀を送つて、深厚な謝意を

表したのである。

會館の貸室は幸ひ申込者多く、自給自足以上に優に收益を擧げ得るに至り、經濟的基礎は先づ据えられたといつてよい狀態になつた。ここに於てか世界日曜學校協會よりの補助金を辭退することになり、多年の深い好意を感謝して、いよ〳〵獨立獨歩の域に入つたのである。けれども日本日曜學校協會として世界日曜學校協會本部に對する年々の負擔金は、從來の通り醵出するので、この點から觀れば、將に主客轉倒の形となつたわけである。

この間わが日曜學校界は三人の功勞者を天に送つた。その一は協會の創立に參與し、長く理事長であり、その後名譽理事たりし協會の首石小崎弘道、その二は前後八年間幹事の職に在つて、特に世界大會の大任を完うした名譽主事川澄明敏、その三は斯界の先覺的指導者として生涯をそれにささげた田村直臣である。

昭和十四年三月三十一日、會館に對する感謝記念會を、本部に於て開くと共に、協會幹部は小崎、川澄兩氏の墓を多摩墓地に展して、その報告をしたのであつた。

顧れば會館建築のため、先頭に立つて百方盡策された澁澤子爵は既に亡く、阪谷男爵は重患癒えず猶劇しい活動は控へて居られる。乃ち感謝會に書を寄せて『日曜學校會館の今日の完成を見

るまでには、山本博士を初め日曜學校關係者諸君の御苦心は隨分久しく、實に容易ならざるものがあつたことを、余はよく承知してゐる。從つて諸君の今日の御心境を御推察申上げて、余も共に嬉しく芽出度く、心の清々しさを感ずるものであります』といつたのは、蓋し關係者誰もの感懷を代辯したものといふべきであらう。

昭和十四年四月、横濱に開かれた第二十二回日本大會に提出された報告によれば、協會加盟部會百六個、日曜學校二千八百七校、教師一萬千七百二十四名、生徒十七萬千三百五十二名を數へるに至つた。猶、協會では早くより毎年クリスマスを期して、加盟日曜學校の勤續教師と精勤生徒に對し、教師には賞狀とメタルを、生徒にはメタルを贈ることに定めたが、この祝祭を飾るのにふさはしい企なので、多大の奬勵となり、逐年その數を增して、昭和十四年度は精勤生徒九千五百九十八名、五年以上勤續教師四百二十七名に達した。その内二十年三十七名、三十年十二名、四十年四名を數へた。これ亦斯界の發展充實を物語る一資料たるを失はない。

これより曩き、昭和十二年七月、日支事變が勃發し、兩國干戈を取つて相見えるに至り、更に又十五年四月には、英佛に對し獨伊の宣戰となり、『戰爭と戰爭の噂』は全世界に瀰漫するに至つた。かかる狀勢のため、昭和十五年七月、アフリカのダーバン市に開かれる筈の第十三回世界日

曜學校大會は中止となり、五月、ニューヨーク郊外モホンク山莊に世界本部常議員會を召集することになつた。協會は恰も滯米中の湯淺八郎博士に囑して、代員として出席してもらつたが、席上わが山本理事長は副會長の一人に、基督教聯盟會長阿部義宗は特別委員の一人に推された。

かく協會は充實の一路を辿つてきたが、世は非常時となり、國家總動員上下總力戰による東亞新秩序の建設が叫ばれるやうになつた。これ實に千載一遇の秋である。協會に於ても時代に卽應して、積極的態度に出づることを決し、先づ昭和十四年初頭總主事事務取扱だつた石川義一を總主事に推擧し、重任八期の理事長として、オリンピック競技の日本側指導者であり、テレビジョン發明の權威者である早稻田大學理工科長工學博士山本忠興を戴き、內容の充實を期した。

かくて恰もめぐり來たつた昭和十五年卽ち皇紀二千六百年を記念すべく、宗教及宗教教育の權威的研究機關たる『日本宗教教育研究所』を創設し、所長に山本理事長、主幹に石川總主事、參與に龜德、馬場、海老澤の三理事、所員に廣島高等師範學校教授平塚益德、立教大學教授牛島義友、同志社大學講師松山三郎、日本神學校講師三輪和敏、南京基督教青年會總主事安村三郎を擧げた外、本史の編纂其他の新計畫を提げて、この光榮ある年を迎へたのである。

ここにわが日曜學校の歷史を閱し來たつて、鮮かな攝理の御手の動きを見る。まことに初めに

於て、それは芥種の如き小さいものであつた。それが七八十年のうちに、かくも伸び、繁り、地に張り、空にひろがつて、多くのものを宿すに至つた。七八十年前、神ならぬ誰が、今日のこの有樣を想見したらうか。往を顧みて、豐かな恩寵と惠福とを肝に銘ずると共に、來を望んで、一層の緊張と、勇氣と、使命感に燃やされざるを得ないのである。

日本日曜學校史

日本日曜學校史 終

昭和16年9月25日印刷
昭和16年12月25日發行

「落丁亂丁の節は
直接本社にてお取
換へいたします」

Printed
in
Japan

日本文協登録番號
第122034號

「日本日曜學校史」
㊙定價 壹圓五拾錢
送料 十四錢

著者 山本忠興

發行者 四阪保治
大阪市天王寺區悲田院町二五地

印刷者 矢張左馬紀
大阪市淀遠區芦原町一一八八ノ五地

印刷所 日本印刷製本株式會社
大阪市淀遠區芦原町一一八八ノ五地

發行所 日曜世界社
大阪市天王寺區悲田院町二八番地
振替大阪一六七四番
電話天王寺九八五番

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

トエ8M－6

◈宗教々育の最高指針◈

宗教々育に於けるお話の活用

エグレスト女史著
宮崎小八郎譯

如何にすればお話がうまく出來るかといふことは多數の日曜學校教師、また御兩親方の秘の鍵を與へてくれるばかりでなく、お話を宗教々育に最も有効に活用する道を、多數の實例を引用して親切に解說指導してあります。日曜學校、幼稚園の先生、親方必讀の書

◇四六判上製二四〇頁
◇定價壹圓
◇送料八錢

宗教々育管理法

海老澤亮著

少年傳道の事業は單なる熱心だけでは到底成し遂げられない。そこには一貫した組織と計畫が必要である。これなくしての少年傳道は時間と經濟の濫費に了ることを私共は屢々體驗させられてゐる。本書は著者の豊富なる知識と體驗から生み出されたこの方面に於ける唯一の參考書。日曜學校教師必讀の好著である。

◇四六判二〇〇頁
◇定價七十錢
◇送料六錢

思慮ある母達の爲に

兒童教養の社會學的考察

竹内愛二著

本書は兒童を教育するに當つて是非とも必要な基礎的知識とその應用を社會的立場から解り易く解說し、從來の兒童に對する誤つた見方や態度を正して、日常の個々の問題に對しては一々實例を擧げて『どんな場合にどうすればよいか』を親切に明示してあります。全體一字一句がそのまゝ家庭教育に適用される比類なき好著。

◇四六判上製二四〇頁
◇定價八十錢
◇送料十錢

發兌　大阪市天王寺區悲田院町二八地　日曜世社界　振替大阪一六七四

終